

福山駅周辺デザイン計画 2024 (案)

※更新箇所を赤字にしています

I はじめに

01	計画の目的	1
02	計画の位置付け	1
03	計画の期間	2
04	計画策定のプロセス	2
05	都市に求められる役割	3
06	福山駅周辺の再生がめざすもの	3
07	福山駅周辺の現状と課題	8

II 福山駅周辺エリアの価値を高める戦略

01	7つの戦略と取組	9
----	----------	---

III エリアビジョン

01	4つのエリアビジョン	10
02	福山城周辺エリア	11
03	伏見町周辺エリア	15
04	三之丸町周辺エリア	21
05	中央公園周辺エリア	30
06	各エリアの関連事業（全体図）	32
07	4つのエリアに共通して行われる事業と 周辺地域と連携して行われる事業	33

IV ウォーカブルエリア

01	福山市のウォーカブルなまちづくり	38
02	拠点とウォーカブルエリアの設定	40
03	ウォーカブルな駅周辺の実現プロセス	41
04	福山駅周辺の整備イメージ	42
05	主要な歩行者・車両動線のイメージ	45
06	事業の実施プロセス	46
07	駐車場が集積している場所	47
08	歩行空間のイメージ	48
09	交差点のイメージ	49
10	ウォーカブルなストリートのイメージ	50

V 最後に

01	働く・住む・にぎわいが一体となった福山駅前に向けて	52
----	---------------------------	----

参考資料

関連事業の成果指標	54
福山駅前デザイン会議の開催経過	56
福山駅前デザイン会議構成員名簿	57
用語解説	58

はじめに

01 計画の目的

福山駅周辺デザイン計画（以下「デザイン計画」という。）は、福山駅前再生ビジョンに掲げる、「働く・住む・にぎわいが一体となった福山駅前」の実現に向け、行政と民間が行う具体的なソフトとハードのプロジェクトを定めた官民連携の計画です。

公共空間などを新たな方法で活用していくことで、コロナ禍における新たな日常を踏まえ、福山駅周辺を居心地が良く、歩いて楽しい空間へと転換し、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人中心の豊かな生活を実現します。

また、福山駅周辺の再生は、駅周辺と周辺地域や備後圏域の人や産業がつながることで経済の好循環を生み出し、市域全体の発展とその効果を備後圏域及び中国・四国地方へと波及させていくことをめざします。

このデザイン計画を官民が連携して着実に進めていくことで、さらなる良質な民間投資を呼び込み、備後圏域の玄関口にふさわしい駅周辺として再生を実現していきます。

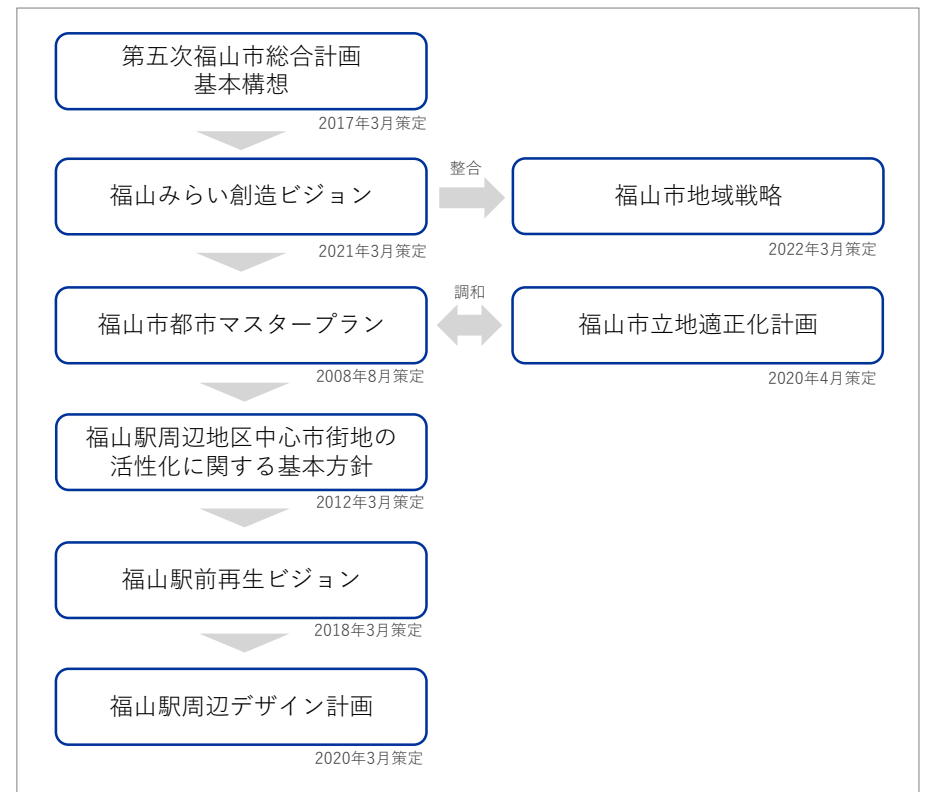


公共空間や民間所有の空間の活用のイメージ

02 計画の位置付け

デザイン計画は福山駅周辺再生の基本計画です。この計画ではエリアビジョンやウォークブルエリア※1を定めています。

また、福山駅周辺再生に資する主な事業を関連事業として掲載しています。関連事業は個別の事業計画などに基づいて実施されます。

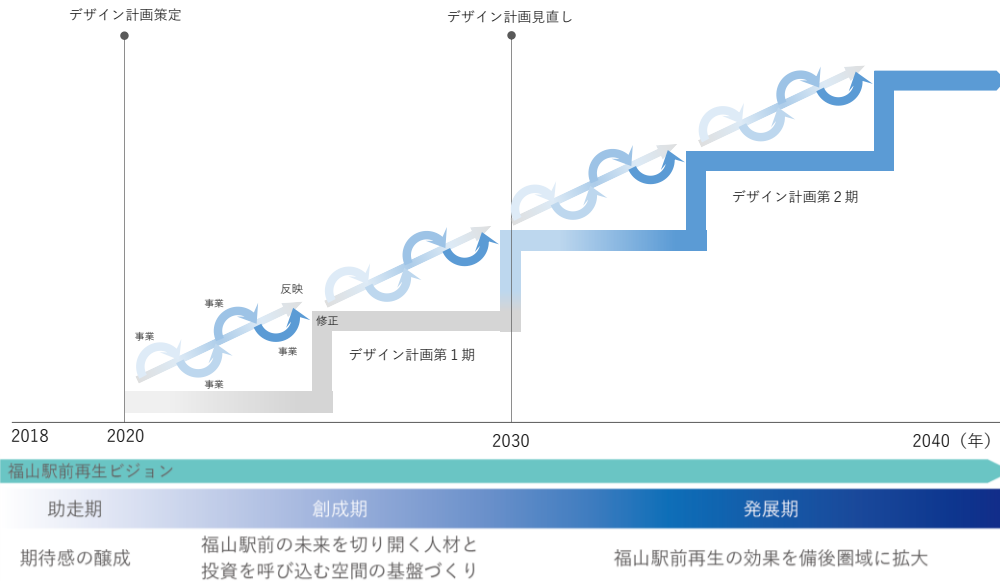


図表1 計画の位置付け

1 はじめに

03 計画の期間

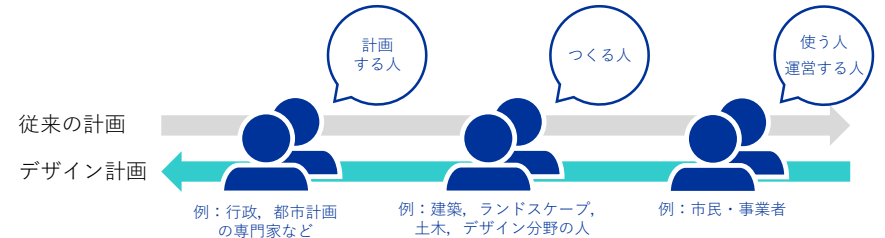
デザイン計画は10年間を1期として策定し、概ね5年を目途に社会情勢の動向を見極めながら適宜見直します。まちを使う市民や事業者が活動しやすい環境になるよう、ライフスタイルの変化やプロジェクトの進捗など、社会情勢の変化に柔軟かつスピーディーに対応し、見直しを重ねながら進化させていきます。



図表2 計画の期間

04 計画策定のプロセス

従来のまちづくりは、「計画する→つくる→使う」というプロセスで行われています。デザイン計画は、これとは逆のプロセスをたどり、エリア価値創造フォーラムなどに参加する市民や事業者など実際にまちを使う人が考えて、実験を行い、それを計画に結びつけていくというプロセスで立てられます。



図表3 計画策定のプロセス

05 都市に求められる役割

近年、知識集約型の産業の拡大、社会のデジタル化の進展などに伴い、新たな付加価値を生み出せる人材が重要視されています。これらの人材を惹きつけるためには、多様なバックグラウンドを持つ人材を受け入れたり、働き方・暮らし方・生き方を選択できたりする寛容さが都市に求められています。人との出会い・交流が充実している都市は、人や企業を惹きつける魅力・磁力のある都市であるといえます。

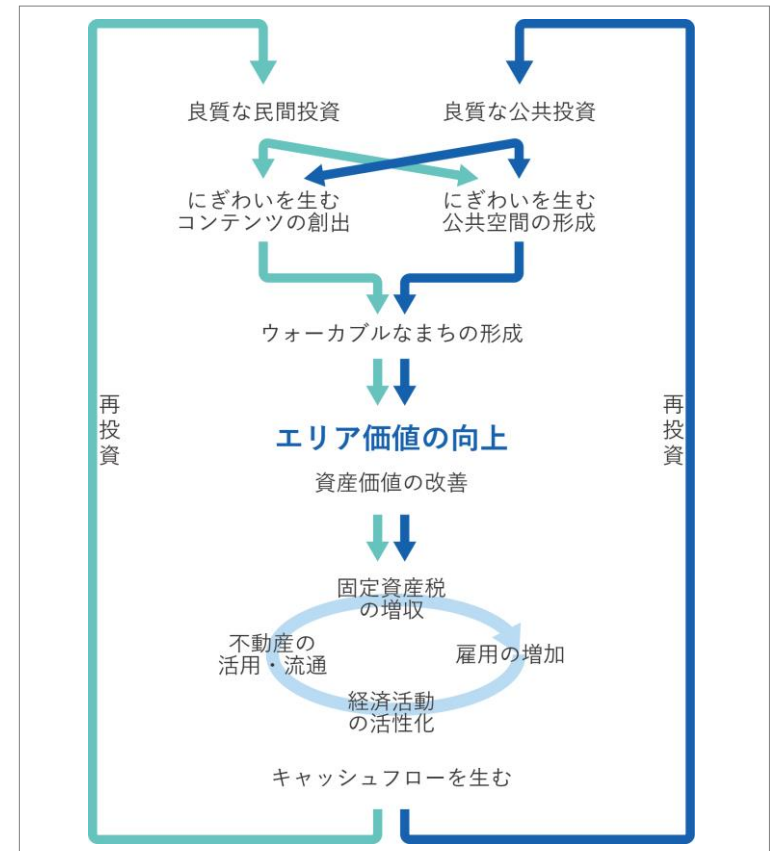
また、コロナ禍によってオンライン上でのテレワークや購買、娯楽などのサービスのイノベーションが起こりつつあります。今後は新たな日常を前提として、多様な人材の集積や交流の機会が充実している都市に対する魅力がより高まっていくと考えられます。

福山が備後圏域の中核都市として周辺市町と相互に成長していくため、玄関口である福山駅周辺を官民が連携して居心地の良い空間へと転換し、周辺地域のヒト・モノ・カネ・情報がつながることで、域内の経済の好循環を生み出していく都市となる必要があります。

06 福山駅周辺の再生がめざすもの

エリア価値を高める経済循環

官民の良質な投資により、駅周辺に都市機能を集積させることやにぎわいを生むコンテンツ^{※2}を創出すること、公共空間の形成をすることで、ウォークラブルなまちを形成し、エリア価値^{※3}を高める経済循環を再構築します。



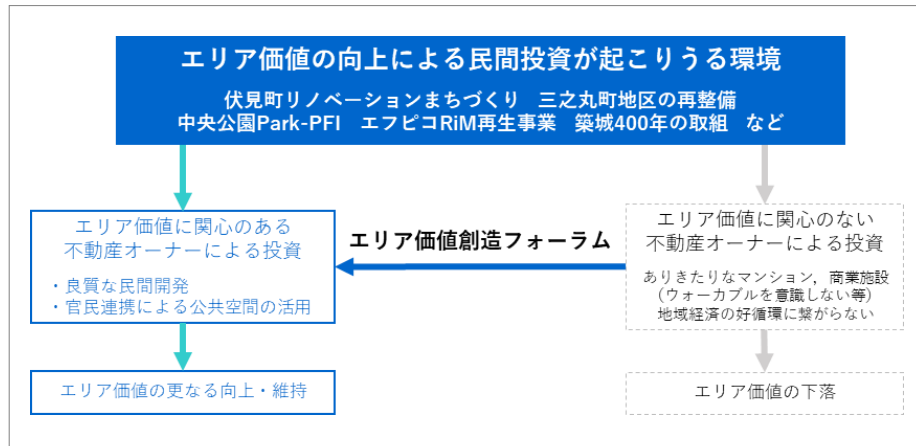
図表4 エリア価値を高める経済循環

1 はじめに

エリア価値創造フォーラム

エリア価値を向上させるためには、土地・建物などのオーナー、そこを借りて事業を展開する事業者、マンションや商業開発を行うデベロッパー、行政職員、そしてまちを使いこなす市民の方々などが、まちの課題やビジョンを共有し、共通認識を持つことが必要となります。

2022年度（令和4年度）から、エリア価値創造フォーラムを開催し、エリアの関係者が、エリアの特徴や課題に応じた新たなまちづくりの手法について理解を深める取組を始めています。フォーラムを通じて、スモールエリアの将来像作成やイベント等の試験的な取組、ウォーカブルなまちを意識した個々のリノベーションや共同建て替えなど、エリア価値の更なる向上をめざした取組を進めてまいります。



図表5 エリア価値創造フォーラムの位置付け

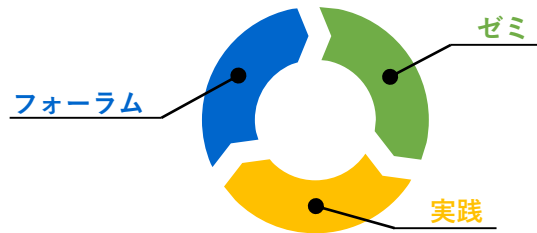


エリア価値創造フォーラムの様子

1 はじめに

エリア価値創造ゼミ

2023年度（令和5年度）から、市内でまちづくりに関する取組を考えている方や既に取り組まれている方を対象に、ご自身の具体的な活動を考えるためのステップとして、フォーラム後に、エリア価値創造ゼミを開催しています。フォーラムでまちづくり手法について学び、ゼミで課題の共有や参加者同士のつながりを作ることで取組の方向性などを深化させ、実践を通して出た課題を、フォーラムやゼミに繰り返し参加することで解決していく流れを作り、エリア価値の向上に効果的な取組へつなげていきます。



図表6 エリア価値創造ゼミ参加者の取組のサイクル



エリア価値創造ゼミの様子

1 はじめに

市域全体の一体的で持続可能な発展

本市の都市核の中心である駅周辺と周辺地域のヒト・モノ・カネ・情報がつながることで相互に経済の好循環を生み出し、SDGs※4の視点を踏まえた市域全体の一体的で持続可能な発展をめざします。

駅周辺の再生と、周辺地域の潜在資源の発見・活用が連動することで新しい持続する産業を生み出し、次頁に示すようにその効果を備後圏域から中国・四国地方へと波及させていきます。

2020年度（令和2年度）には、福山駅前アクション会議を周辺地域でも開催し、駅周辺で活躍している人と周辺地域で活躍している人や産業をつないでいく取組を行い、福山の食文化や自然を生かした、地域内で資金を循環させる仕組みづくりなど、具体的な取組が生まれています。

今後は、福山市地域戦略に基づき、地域内外の多様な主体が共に創る地域づくりを推進し、周辺地域の課題解決や魅力創出に向けて、駅周辺に集まる人や企業を周辺地域に結び付けていきます。

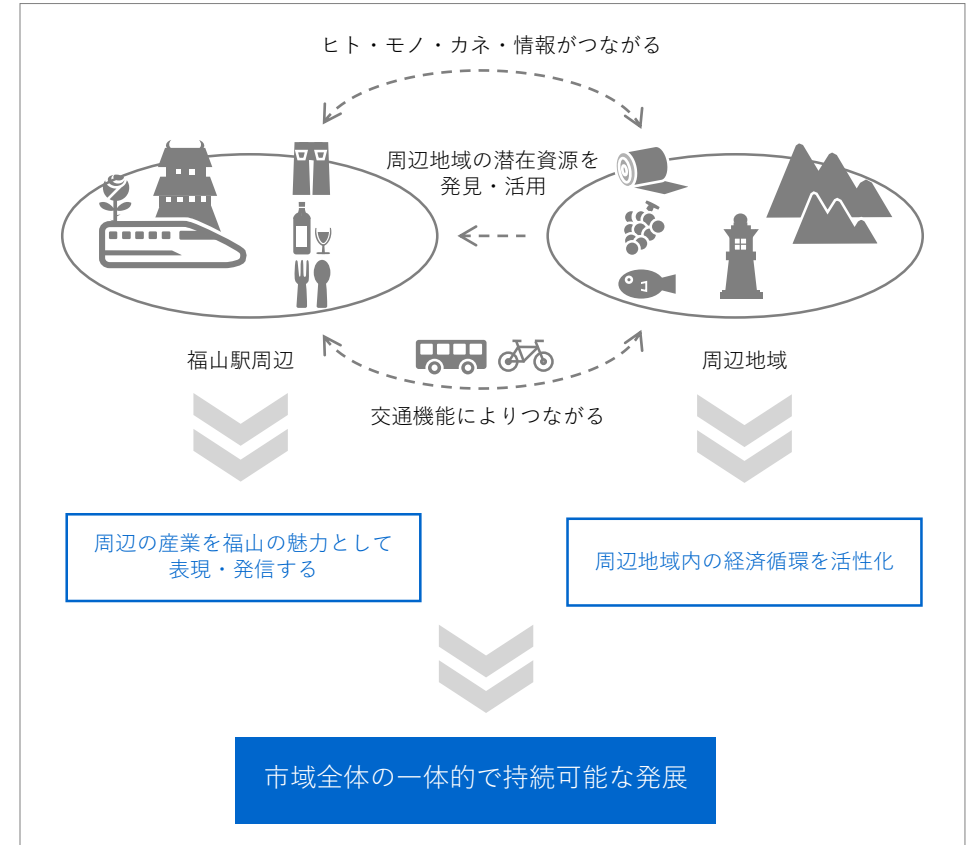


第2回（対象：駅前）



第3回（対象：南部地域）

福山駅前アクション会議2020の様子



図表7 市域全体の一体的で持続可能な発展

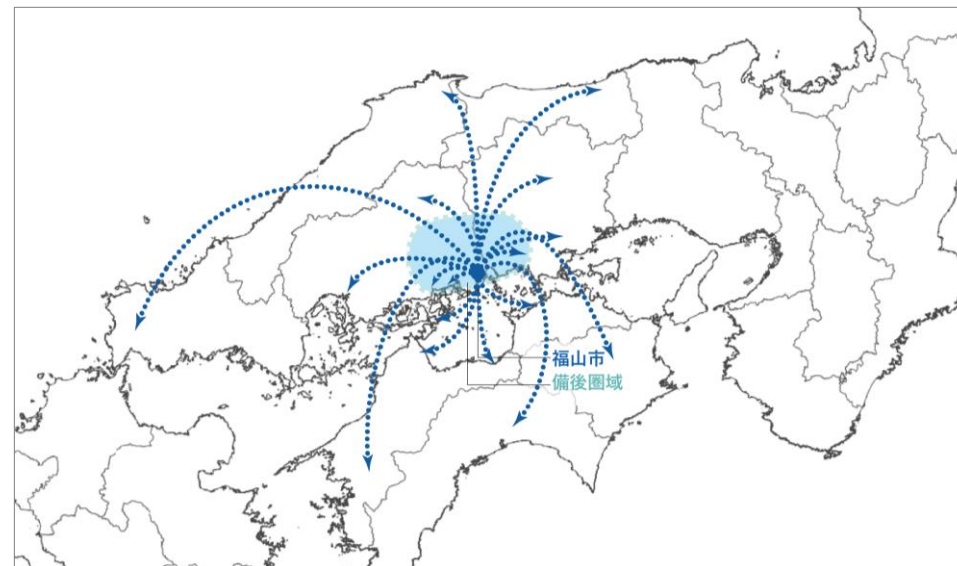
1 はじめに

将来の都市構造（イメージ）

- 駅周辺や周辺地域の生活拠点にその規模や特性に応じた都市機能を集積し、これらを公共交通などで結ぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク※5」の考え方でまちづくりを推進します。都市核や地域核、その他の生活拠点を結ぶ利便性の高い公共交通軸を確立するとともに、地域実態に応じた移動サービスを導入し、維持・確保することで市民の日常生活や地域活力を支えます。
- コロナ禍により、人々の価値観やライフスタイルが変化・多様化し、地方の良さが見直されており、大都市に人や企業が過度に集積することのリスクが再認識され、地方都市へと人の流れを生む契機となっています。福山駅周辺や周辺地域がこうした社会の変化の受け皿となるためには、他のまちにはない魅力を高め、個人が希望する働き方・暮らし方を選択・実現できる地域づくりが求められます。

広域エリアへの波及

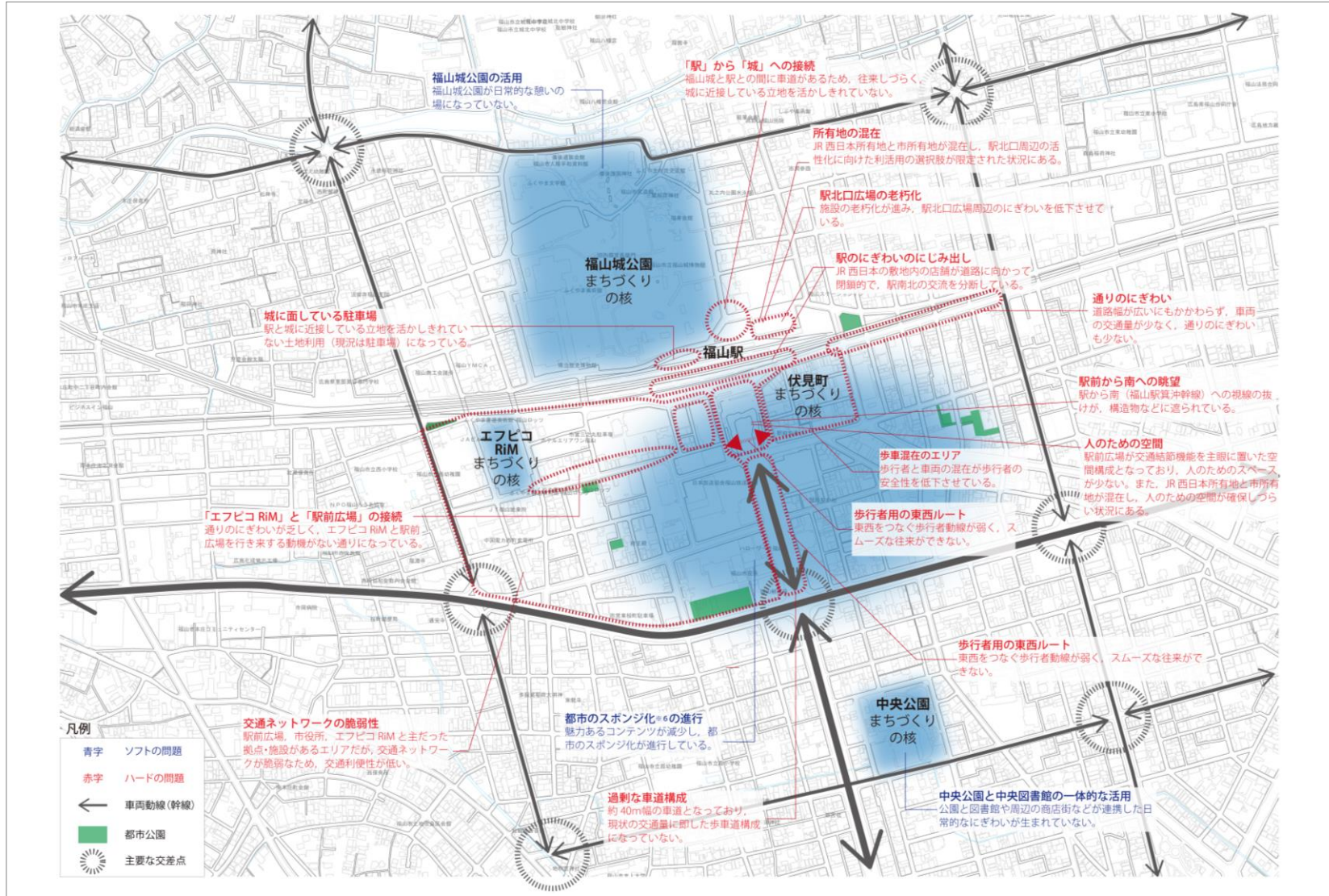
- 駅周辺再生の効果を市内や備後圏域にとどまらず、中国・四国地方に広く波及させます。
- 将来にわたって駅周辺が備後圏域を支える産業やビジネスの拠点となることにより、自立する地域をつくります。
- 公共交通網や情報発信機能を充実させ、駅周辺と市内、備後圏域をつなげることで活発な人やモノの往来を支えます。



図表8 広域エリアへの波及イメージ

07 福山駅周辺の現状と課題

次の図に示す問題を解決する必要があります。



II 福山駅周辺エリアの価値を高める戦略

01 7つの戦略と取組

駅周辺のエリア価値を高めるため、福山駅前再生ビジョンに掲げる6つの柱に基づき、7つの戦略を立て、関連事業に取り組みます。

戦略1	戦略2	戦略3	戦略4	戦略5	戦略6	戦略7
新たな産業の創出 福山・備後圏域ならではのコンテンツを活用した都市型産業を集積させ、新たなシゴトや雇用を創出し、エリアの稼ぐ力を向上させる。圏域外へ流出している若者や女性、高度プロフェッショナル人材を惹きつけるビジネス環境を整備する。	QOL^{※7}を高めるライフスタイルの提供 空き店舗などを活用し、質の高いコンテンツを導入することで若者や女性を楽しめるおしゃれなまち並みを形成する。高次都市機能 ^{※8} に加え、日常生活に必要な施設やサービスが集積した便利で安心して暮らせる居住環境をつくる。	公共空間の活用と整備 官民連携による道路や公園などの公共空間や民間所有の空間を複合利用するなどの新たな活用により、居心地が良く歩いて楽しい空間を形成する。	民間事業者が活動しやすい環境づくり 規制の見直しや事業化に必要なファイナンスの仕組みをつくる。エリア価値を高めるまちづくりの視点を持ち、主体的に事業を行っていくエリアマネジメント組織を支援する。	再生に必要な人材の育成 遊休不動産などを活用した実践的なワークショップの開催など、まちづくりの推進に必要な人材を発掘・育成する。	官民の連携 市民や事業者、行政が連携してエリア価値を高める活動を推進する体制を構築する。公共空間などの更新や資産などの効率的・効果的な運用に民間の専門的なノウハウや技術を活用する。	地域インフォメーションデザイン^{※9}の構築 行政や民間が連携し、駅周辺だけでなく周辺地域も含めそれぞれの視点から新鮮な情報を常に発信できる人材の発掘や仕組みをつくる。

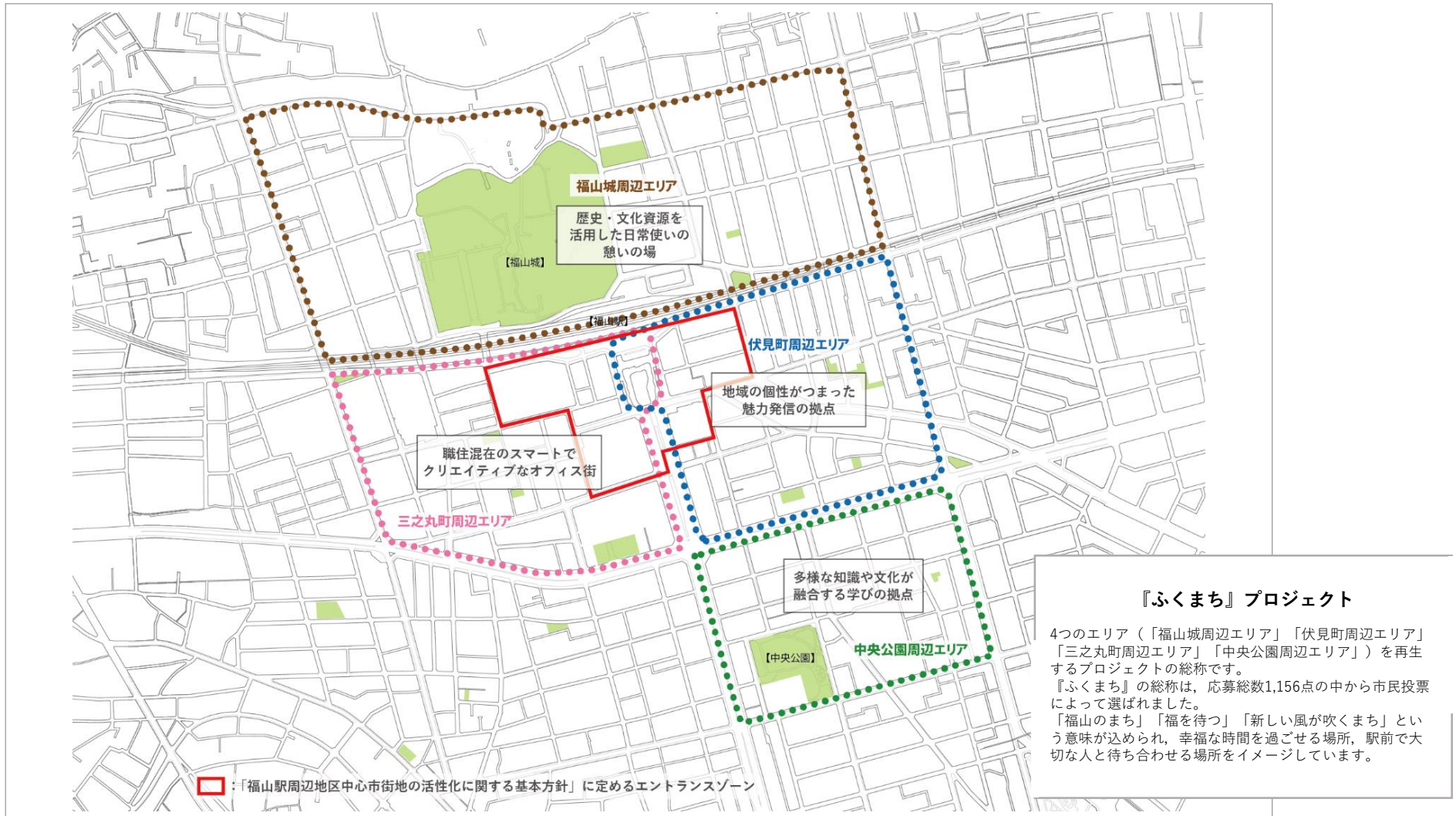
働く・住む・にぎわいが一体となった福山駅前

福山駅前再生ビジョン6つの柱	福山の伝統と柔軟なアイデアが出会うビジネスの拠点づくり	新しいライフスタイルの実現	福山城などを活用したにぎわいの創出	ヒト・モノ・カネの活発な交流を支える交通環境の充実	地域づくり・人づくり	戦略的な情報発信	
戦略	戦略1	新たな産業の創出					
	戦略2	QOLを高めるライフスタイルの提供					
	戦略3	公共空間の活用と整備					
	戦略4	民間事業者が活動しやすい環境づくり					
	戦略5	再生に必要な人材の育成			戦略5 再生に必要な人材の育成		
	戦略6	官民の連携			戦略6 官民の連携		
	戦略7	地域インフォメーションデザインの構築				戦略7 地域インフォメーションデザインの構築	
取組	i	都市型産業の集積	ICT、IoT、AI ^{※10} などを活用した次世代インフラの構築	福山城を始めとした歴史的な資産の活用	福山駅前へのアクセス性の向上	エリア価値を高めることができる人材の育成と仕組みづくり	福山市や備後圏域の地域資源の発掘と磨き上げ
	ii	イノベーションなどを生み出す好循環システムの構築	副業などの新しい働き方の推進	美術館や博物館、文学館などの活用	自動車や自転車の駐車場の適切な配置	外国籍の人が活動しやすい環境づくり	テーマやストーリーのある情報の発信
	iii	副業などの新しい働き方の推進	交流機会の創出	ばらを生かした憩いの空間づくり	福山駅前と福山駅周辺の歩行者の回遊性の確保	防災性と持続性を備えた都市インフラの再構築	多様化する情報メディアへの対応
	iv	若者や女性の就業・創業支援	市民の居場所づくり	市民参画による福山城公園や中央公園の活用	歩いて楽しい歩行空間の創出	エリアプロデュース ^{※11} とエリアマネジメント ^{※12} の推進	福山アンバサダーからの情報発信
	v	遊休不動産を活用したビジネスモデルの構築	多様な手法を活用したまちづくり	観光客や買い物客など他都市からの集客の向上	レンタサイクルの拡充	未来の社会づくりに自ら取り組む人材の発掘と支援	多様な言語・ツールを活用した情報の発信
	vi	福山らしいコンテンツの創出と集積	良質な住環境の整備	エリアプロデュースとエリアマネジメントの推進	道路規制の強化と緩和		

III エリアビジョン

01 4つのエリアビジョン

駅周辺を4つのエリアに分け、それぞれのエリアの特性を生かした魅力と特徴のある将来像（エリアビジョン）を示します。このエリアビジョンに沿った良質な民間投資を呼び込むことで、駅周辺に性格の違うエリアを形成し、人々の価値観や目的に応じた行き先の選択肢を増やします。次頁以降では、それぞれのエリアに応じたエリアビジョン、エリアイメージ、取組の方向性、関連事業に加え、周辺地域と連携して行われる関連事業を定めます。



III エリアビジョン

02 福山城周辺エリア

AREA VISION 歴史・文化資源を活用した日常使いの憩いの場

エリアイメージ

- 福山城へと人々をいざなう駅北側の玄関口
- 福山城やふくやま美術館を始めとした歴史・文化・芸術が融合するエリア
- 福山城が見えるまち並みと福山城からの良好な眺望が保全されたエリア

取組の方向性

- ✓ 福山駅を訪れた人々に福山城の中に駅があるような印象を与える。
- ✓ 駅北口スクエアや福山城周辺道路の整備などを行い、福山城の姿を望みながら、駅から城へとつながる回遊動線を生む。
- ✓ 2022年の福山城築城400年を節目として、福山城周辺エリアが有する歴史・文化・景観などを積極的に保存・発信する。
- ✓ 福山城公園などの公共空間の活用に向けて、周辺の公共施設・空間の再生と合わせて検討を行い、市民が日常的・非日常的に利用できる空間を形成する。

エリアマップ



図表12 福山城周辺エリアマップ

III エリアビジョン

02 福山城周辺エリア

AREA VISION 歴史・文化資源を活用した日常使いの憩いの場

関連事業のロードマップ

(年度) (以下, 同じ)



※各事業の内容は、今後変更となる可能性があります。
※駅北口広場整備事業のあり方については引き続き検討します。

図表13 福山城周辺エリアのロードマップ

III エリアビジョン

◆ 福山駅北口スクエア整備事業

福山城へと人々をいざなう駅北側の玄関口として、芝生広場や福山城の景観と調和するばら花壇を整備するほか、車道と広場との段差を解消することで、イベント時などでも利用しやすい空間となり、にぎわいの創出や回遊性の向上を促す。



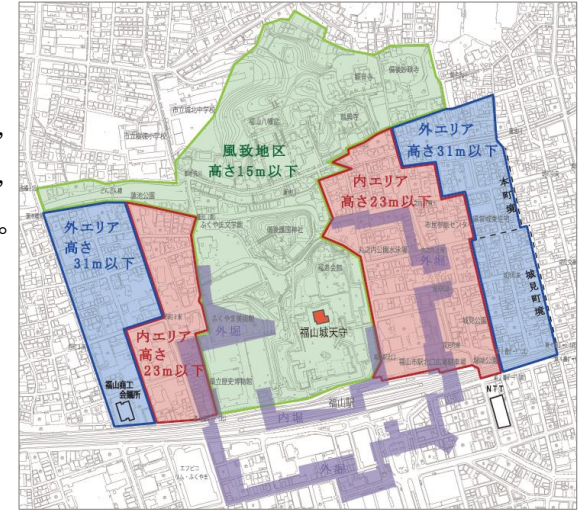
◆ 福山城公園パークマネジメント

福山城公園の新たな活用に向けて、エリアごとの機能整理、各施設の活用及び公募設置管理制度 (Park-PFI※13) などの導入に向けて検討を行う。



◆ 福山城周辺景観地区 (内エリア・外エリア)

福山城が将来にわたり本市のシンボルとして、まちづくりの中心であり続けられるよう、福山城周辺の建築物や工作物、広告物の高さ制限などを行う。



図表14 対象地区
出典：福山市景観計画 (P76)

◆ 福山城公園周遊グリーンスローモビリティ

グリーンスローモビリティ※14を活用することにより、高齢者や障がい者など、誰もが福山城や周辺の文化観光施設などへ行きやすい環境の整備を行う。



図表15 走行ルート

III エリアビジョン

◆ 福山城周辺道路整備事業

福山城周辺の道路について舗装美化化、電線類地中化の実施や歩行者優先化に向けた検討を行うことで、福山城周辺において景観に配慮した歩きやすい歩行空間を創出し、駅北側の歩行者の回遊性を高めることをめざす。

舗装美化化

福山城の東側道路、駅北口広場の北側道路において、周辺の景観に配慮した舗装の美化化を実施する。

電線類地中化

駅北口広場の北側道路において電線類地中化を実施する。

道路機能再編

福山城の南側道路の歩行者優先化に向けた検討を引き続き行う。

◆ 福山城天守他耐震改修工事 他

福山城天守他耐震改修工事、展示リニューアル

耐震性能を向上させる改修工事に合わせてバリアフリー施設を整備し、来館者の安全確保と利便性を向上させる。同時に展示内容をリニューアルすることにより、多くの市民や観光客に親しまれる天守として福山の魅力発信を行う。また、月見櫓などの施設の新たな活用について、専門家などに意見を聴く中で、さらに多くの方々が福山城などを活用したにぎわいの創出ができるよう検討する。



福山城夜間景観照明整備（ライトアップ）

照明デザイナー石井幹子さん監修によるライトアップを整備し、福山城を核とした魅力ある夜間景観及び夜のにぎわいを創出し、福山城及び周辺エリアの魅力を高める。



福山城の保存整備

史跡福山城跡の保存整備基本計画及び整備基本計画に基づいた二之丸西側の石垣の復元などの整備事業を実施する。

◆ 市民参画センター（一部）のWi-Fi整備

施設利用者の利便性の向上を図るため、市民参画センター2階の会議室（まちづくりサポートセンター）に、フリーWi-Fiを整備した。

◆ 丸之内公園再整備事業

丸之内公園を再整備することにより、福山城周辺エリアに訪れる人の憩いと交流の場を提供する。

III エリアビジョン

03 伏見町周辺エリア

AREA VISION 地域の個性が詰まった魅力発信の拠点

エリアイメージ

- せとうちツーリズムなど広域エリアからの玄関口
- 福山の史跡や福山の過去のまちなみを体感できるエリア
- 地元の優れた素材や魅力的な人材などが集積し、発信するエリア

取組の方向性

- ✓ 福山駅に隣接する立地を生かし、せとうちエリアへとつなぐ拠点を形成する。
- ✓ リノベーションまちづくりを継続し、新しい業態の店舗（せとうちサイクリングツーリズム、健康管理能力を高めるスポーツジム、人や食を通して福山の魅力と出会うシェアキッチン、体験型クラフトビール醸造所、アートギャラリー、地元の食材・製品などに触れることができるマルシェなど）とまちの歴史を引き継ぐ既存店舗が混在する路面階を形成する。
- ✓ 2階から上の階は「まち宿^{※15}」化したり、地場産業のクリエイティブオフィスとして活用するなど多様な人材の出会い・交流が生まれるエリアに変える。
- ✓ 複数の敷地・建物の共同建替えの際に、路面階の店舗化と路地空間を作り出すための誘導を行いつつ、駅前にふさわしい機能を集積する。
- ✓ 駐車場機能を集約するなど、歩きやすい歩行者中心の通りを形成する。
- ✓ エリア価値の高まりや地権者の機運を踏まえ、街区ごとなどで勉強会を行い、小規模な共同建替えを含めた新たな段階の取組について検討する。
- ✓ 福山駅前広場再編事業と連動して、ターミナル機能の整備や福山駅前広場と道路空間を活用したにぎわいの創出など、エリアの活用方法を検討する。

エリアマップ



図表16 伏見町周辺エリアマップ

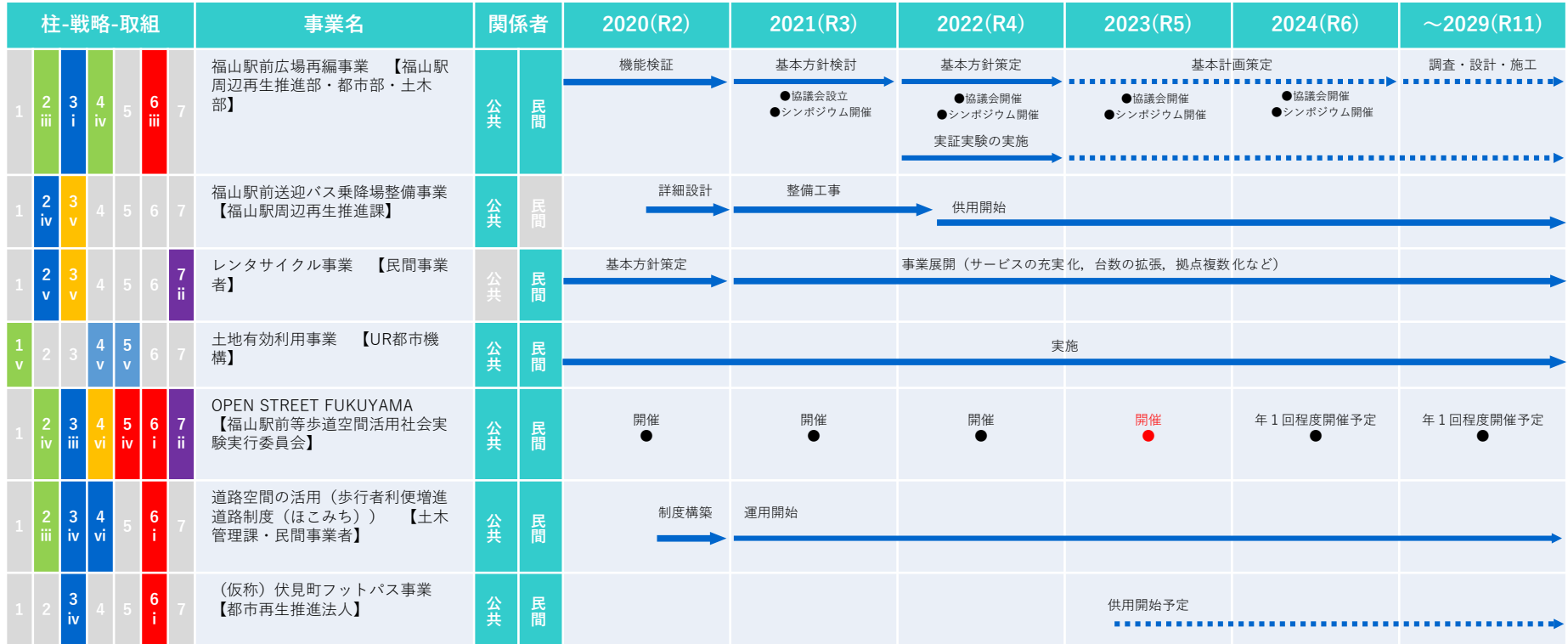
※歩行者利便増進道路制度（ほこみち）は、指定区間を示しています。

III エリアビジョン

03 伏見町周辺エリア

AREA VISION 地域の個性が詰まった魅力発信の拠点

関連事業のロードマップ



※各事業の内容は、今後変更となる可能性があります。

図表17 伏見町周辺エリアのロードマップ

III エリアビジョン

◆ 福山駅前広場再編事業

駅周辺を経済の好循環を生み出すハブ機能を備えたウォークラブルな空間に転換するため、その核となる駅前広場を交通結節機能と都市の広場機能が融合する広場に変えることで、駅周辺への人の流れを生み出し、良質な民間投資を呼び込める魅力とにぎわいのある空間をめざす。

福山駅前広場整備基本方針

駅前広場の再編の理念と計画・整備に係る基本的な方針（課題解決の方向性・将来像・計画の考え方・各機能の配置計画）を示すもの。様々な立場の人々が理念や方針を共有し、『まちを良くする視点』を持って、連携しながら行動することによって、駅前広場を交通結節機能と都市の広場機能が融合した居心地が良く歩きたくする空間へと転換する。

課題解決の方向性

次の6つの課題解決の方向性に沿って、駅前広場整備の計画を検討する。

- ①歩行者と車両が安全で快適に移動できる環境整備
- ②多様な人々と活動を受け入れる居心地の良い空間の創出
- ③福山ならではの特徴や魅力を生かした空間の形成
- ④技術の進化や交通需要の変化、多様な利活用を見据えた可変性の確保
- ⑤多様な主体が活用しやすい広場の運営
- ⑥多様な情報が集積し、情報の発信や交換ができる環境整備

福山駅前広場の将来像

「駅前広場の課題解決の方向性」とデザイン計画に基づく「福山駅周辺の再生がめざすもの」を踏まえ、福山駅前広場の将来像を次のとおり掲げ、その実現に向けて取り組む。

あらゆる資源をつなぎ、福山らしい豊かな暮らしを実現する駅前広場
～ヒト・モノ・カネ・情報・交通をつなぎ、愛着・誇り・魅力ある駅前広場～

各機能の配置計画

次図を基本となる各機能の配置計画として、基本計画の検討を行う。ただし、東西の空間の一体性をより高めるため、駅前広場外にバスターミナルを配置して、全面的に都市の広場機能を生かすべきという意見もあったことから、駅周辺の開発動向によっては、駅前広場を全面的な広場とする計画も視野に弾力的な検討を行う。



図表18 福山駅前広場の各機能の配置計画図（福山駅前広場整備基本方針より）

III エリアビジョン

実証実験による検証

駅前広場に必要とされる機能のあり方を検討していくためには、駅前広場の利用者が駅前広場でどのような活動をしたいと考えているのかを把握し、多様な関係者と連携しながら、計画を検討していくプロセスが大切になる。そのため、実証実験を実施し、得られた結果を計画に反映する。

検証を行った福山駅前広場の各機能の配置計画案（素案）



図表19 福山駅前広場の各機能の配置計画案（素案）のイラスト

2022年度に実施した実証実験 （EKIHIRO CREATIVE！福山駅前広場を楽しむ社会実験）



福山城の遺構を生かした空間

専門家などの意見を踏まえて、駅前広場における福山城の遺構を生かした空間づくりの方向性を整理しました。駅前広場における福山城の遺構の生かし方については、設計段階で検討します。

福山城の遺構を生かした空間づくりの方向性

- 福山城の中に駅があることを表現する
- 本物を残して、史実に基づかないものはつくりません
- 管理・安全上の観点から、お堀は復元しない

福山城の遺構の生かし方

- 上記の方向性を踏まえ、二重櫓など史実が明らかになっていないものについては、引き続き時間をかけて、資料収集に努めるものとします。
- これまでの調査で明らかになっている外堀遺構の石垣の天端を地表面に整備することで、城郭の中であることを表現するなど、具体的な遺構の生かし方については、設計段階で検討します。



福山駅前広場協議会分科会（遺構を生かした空間検討）



史跡福山城跡及び調査区遠景（天満屋からのアングル）
福山駅前広場整備工事（地下送迎場）に伴う
第2次発掘調査報告書（2008）より

III エリアビジョン

◆ 福山駅前送迎バス乗降場整備事業

バスや送迎車などの交通が輻輳し、車両の通行に支障が生じている駅北口の送迎バス乗降場を駅南側に移設することで、バス乗降客が駅周辺を回遊するなど、新たな人の流れを生み出す。



◆ レンタサイクル事業

駅前と鞆の浦などの周辺エリアをつなぐツールとして自転車に着目し、駅前においてスポーツ電動自転車（e-bike）のレンタル事業を展開する。サイクリングを通じた市民のQOL^{※7}向上と「しおまち海道サイクリングロード」の楽しみ方を示しつつ、生活に自転車を取り入れた瀬戸内らしいライフスタイルの模索と、駅前と周辺各エリアのつながりを深化させて地域の相互発展を促す。



**SETOUCHI
PEDAL life**



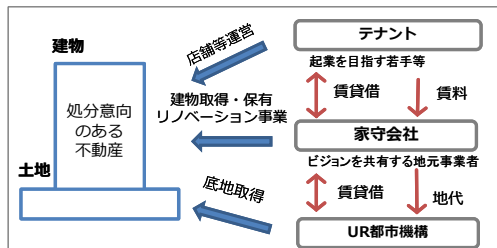
しおまち海道
SHIOMACHI KAIDO
FUKUYAMA CYCLING ROAD

一般社団法人せとうちPEDAL Lifeより提供

III エリアビジョン

◆ 土地有効利用事業（UR都市機構）

駅前再生の実現に向けて、土地の取得、長期保有により**老朽化建物・低未利用地の活用を促し、にぎわい創出、居心地が良く歩きたくなるまちの形成を支援することで、エリア価値の向上を図る。**



図表20 土地有効利用事業を活用した暫定スキームの例
UR都市機構より提供

◆ UR都市機構によるコーディネート（伏見町周辺エリアでの取組）

UR都市機構の持つ事業経験・ノウハウをベースに、公的機関としての中立公平性及び調整能力を生かし、市街地整備改善に必要な調査、調整および技術の提供を行う。



UR都市機構より提供

◆ （仮称）伏見町フットパス事業

伏見町内の市が管理する路地などを整備し、路地裏ならではの魅力を創り出す事業を行う。



図表21 （仮称）伏見町フットパス事業

◆ リノベーションまちづくり

既存の空き店舗などをスピーディに改修して新しいコンテンツ（点）を生み出し、一定のエリア（面）に点を連鎖的に生み出していくことで、エリア全体の価値向上と地域課題の解決をめざす。

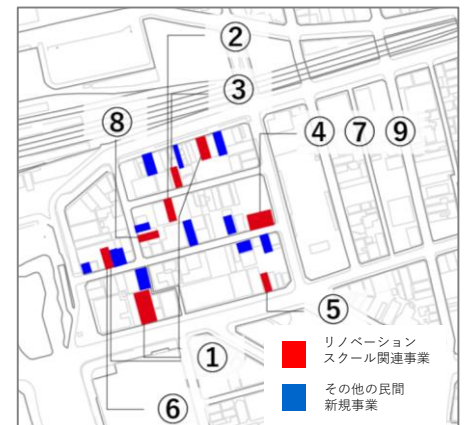
リノベーションスクール

リノベーションまちづくりを進めるため、伏見町を中心に実際の空き店舗を題材に新しい事業の計画を検討する実践的ワークショップ（リノベーションスクール）を開催。スクール受講生が店舗を開業させたり、受講生以外による開業も相次ぎ、地価公示価格の上昇に転じるなど、エリア価値の向上につながっている。日中の人通りが少なかった伏見町に、若い女性やベビーカーを押す家族の姿が見られるようになり、エリアのイメージが変化し始めるきっかけとなった。

エリアマネジメントワークショップ

駅周辺商店街関係者による、エリアごとのビジョンや将来像を描くワークショップ・対話の場を開催。エリアマネジメントの視点を学びながら将来像のイラストやキャッチコピーを作成し、共通認識を持つことで、エリアが一体となり、更なるエリア価値の向上をめざす。

- ① AREA INN FUSHIMICHO (2018/12オープン)
- ② ROEN (2019/7オープン)
- ③ ギャラリーフクヤマツイスト (2019/9オープン)
- ④ THE BEER伏見町 (2019/11オープン)
- ⑤ Little Setouchi (2020/1オープン)
- ⑥ 池口精肉店福山駅前店 (2020/8オープン)
- ⑦ Join Spot 伏見町 (2020/12オープン)
- ⑧ CHOISIR (2021/1オープン)
- ⑨ 泡幸 (2023/1リニューアルオープン)



図表22 伏見町内の開業・改修
※福山市調べ2023年2月時点

III エリアビジョン

04 三之丸町周辺エリア

AREA VISION 職住混在のスマートでクリエイティブなオフィス街

エリアイメージ

- 広域性と拠点性を備えた高次都市機能が集積した備後圏域の玄関口
- 路面階の店舗がまちに開かれ、店舗と道路と三之丸公園がつながる良質な歩行空間のあるエリア
- 多様な人の交流による新しいシゴトを創出するエリア

取組の方向性

- ✓ 三之丸町地区優良建築物等整備事業において、まちの風と光と人の流れを取り込めるよう、外部に面する店舗に開放性の高い開口部を設ける。また、敷地内に24時間通行可能な公共用通路を整備し、周辺エリアとの回遊性を生み出す。
- ✓ 駅から旧キャスパ、エフピコRiMへとつながる通りの店舗や道路、三之丸公園の一体的な活用により、歩いて楽しい歩行空間を形成する。
- ✓ 「福山の未来を育てる」「人と人、人とまちのつながり」を基本コンセプトとし、エリア価値を高め、周辺地域や市域全体の発展につながるコンテンツをエフピコRiMに集積させることでエリア全体の再生をめざす。
- ✓ 福山駅前広場再編事業と連動して、ターミナル機能の整備や広場と道路空間を活用したにぎわいの創出など、エリアの活用方法を検討する。
- ✓ 東桜町緑地や福山駅前広場再編事業によって生まれる広場空間を活用した良質な歩行空間の形成と回遊性の向上をめざす。
- ✓ 三之丸町周辺エリアプロモーションプロジェクト「Wander SANNOMARU」により、それぞれの事業がつながり、エリアのにぎわいの日常化をめざす。

エリアマップ



図表23 三之丸町周辺エリアマップ

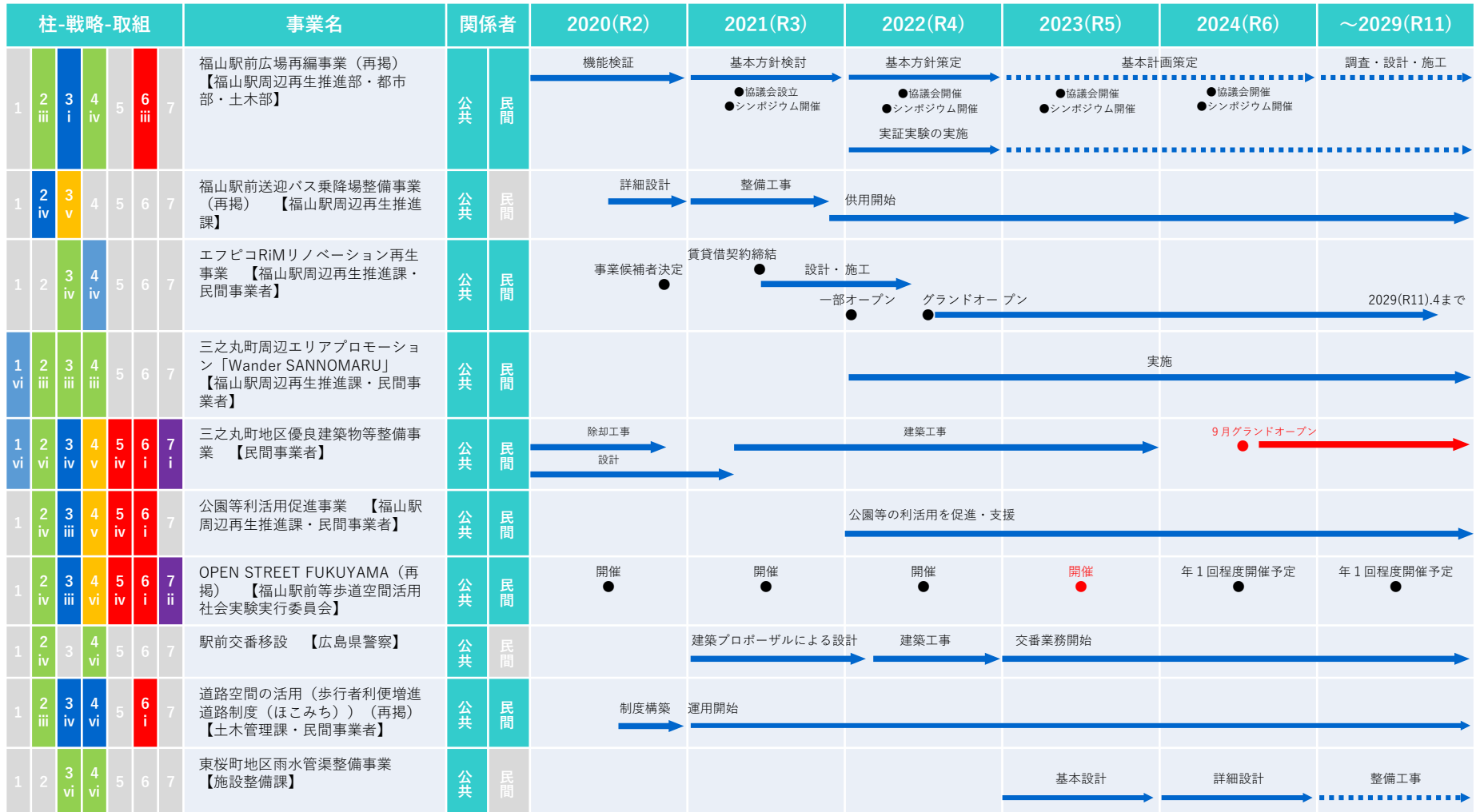
※歩行者利便増進道路制度（ほこみち）は、指定区間を示しています。

III エリアビジョン

04 三之丸町周辺エリア

AREA VISION 職住混在のスマートでクリエイティブなオフィス街

関連事業のロードマップ



※各事業の内容は、今後変更となる可能性があります。

III エリアビジョン

◆ エフピコRiMリノベーション再生事業

商業機能にとらわれない新しい発想のもと、官民がそれぞれ投資を行い、連携しながらエリア価値を高め、市民の豊かな日常生活の実現をめざすもの。さらに、周辺の道路、公園等の公共空間や店舗などとの連携により、本事業の効果を周辺のエリアにまで波及させ、福山駅周辺にさらなる良質な民間投資を呼び込み、ひいては市域全体や備後圏域の発展につなげていくことをめざす。

コンテンツのコンセプト

「福山の未来を育てる」

子どもや若者がこの場で学びその後様々な場所や分野で活躍することで地域を支えていくことがエフピコRiMの担う新しい役割の一つ。

また、将来の福山や備後圏域を支える新たな産業やQOL^{※7}を高める新しいライフスタイルを生み出すためのチャレンジの場として再生することをめざす。

空間のコンセプト

「人と人、人とまちのつながり」

建物内のにぎわいが周辺の道路や公園、店舗にも波及し、周辺のエリアの再生につなげていくことをめざす。

また、建物内には多様な目的を持った人たちが留まることができる広場を設け、誰でも利用でき、多様なアクティビティが誘発される居心地のよい公園のような空間づくりを期待する。



エフピコRiM（本館）の外観写真



iti SETOUCHI（本館1階施設）の写真

(運営事業者より)

本館1階の施設名称

iti **SETOUCHI**
iti SETOUCHI (イチ セトウチ)

コンセプト・ビジョン

福山の未来をつくるクリエイティブ・プラットフォーム

iti SETOUCHI は、単なる消費行動ができる商業施設ではなく、多様な活動を受容する新しい価値観“iti”に出会える新街区。まちとの連続性を分断することのない開かれた設計、暮らしを豊かにする6つの機能を搭載しながらも、それを使い、新しいプラスが生み出される装置となり舞台となる。それゆえ、iti SETOUCHI のロゴマークには舞台があり、その空間では新たな物語が紡がれている。「福山の未来」をつくっていく「人」の始まりを応援する機能や仕掛けを意識したコンテンツを官民が連携をしながら展開している。

- | | |
|---------------------|------------------------------------|
| Market | 地域の個性と魅力が集う、暮らしの商店街 |
| Working | 暮らしと働くを身近に、誰もがつながれる場所へ |
| DIY | 自由なものづくりを地域から、テクノロジーを世界から |
| Rental Space | どう使うかはアイデア次第、半分以上は、みんなの場所 |
| Park | したいこと、やりたいことを。都市の中の“小さなまち” |
| Create | CONTINUE CONSTRUCTION みんなの希望をつくる場所 |

開業後のアクションと生まれた効果

みんなの希望をつくる場所

地域に開かれたコミュニティと空間を実現するため、買い物、学び、ものづくりと、あらゆる世代、目的の方が接点を持つことができる「共創活動」や多様なイベントを実施している。人の往来を受け入れ、挑戦を応援する「みんなの希望をつくる場所」である。

活動展開とiti SETOUCHIの価値

itiからSETOUCHIへ、SETOUCHIからitiへ

iti SETOUCHIの事業活動は、人・経済・情報と様々な「交流」と「集積地」として地域に新たな可能性を見出す場でもある。瀬戸内エリアから人と情報が集まり、その活動を全国に発信していく。多様な人たちのプラットフォームであると同時に、iti SETOUCHI は、事業活動から交流人口の増加を促す「情報発信メディア」としても活動領域を広げ、エリア価値を高めていく。



運営事業者より提供

III エリアビジョン

(運営事業者より)

iti SETOUCHIができるまで

駅前のエリア再生までを視野に入れた元百貨店の再生プロジェクト 人と人、人とまちをつなげる

使い方の新規性

福山駅前の好立地エリアに建つ、福山市所有の元百貨店の再生プロジェクト。今回のプロジェクトに至るまでに、様々な事業者が活用しては撤退を繰り返し、今後の活用は大きな課題であった。そこで、これまでの商業的な利用とは異なり、官民連携でエリアの再生までを視野に入れた、新しい使い方が求められた。

使い方の条件

活用にあたっての条件は、①7年間という短期間の暫定利用をすること、②貸床面積を50%までとしパブリックスペースをふんだんに設けること、であった。この条件を満たしながら、同時に多額の投資や巨大な空間が閉鎖し続けることによるエリアへのリスクを回避するため「部分的改修・スピード再生案」という手法が検討された。

使い方のビジョン

様々な活用条件を満たしながら、繊維業や鉄工業など福山の強みとなる地域資源を生かし、チャレンジする多種多様な人を応援する土壌づくりをビジョンとしたプロジェクトがスタートした。



エリアゾーニング図

こうして、エリアの境界線をつなぐ

巨大な元百貨店を「屋根のある公園」へと再生し

2022年9月に「iti SETOUCHI」として開業した。

III エリアビジョン

◆三之丸町周辺エリアプロモーションプロジェクト「Wander SANNOMARU」

(運営事業者より)

同じビジョンをもち駅前再生に取り組むエリアの民間事業者や地元団体などが、新たに始めようとしている三之丸町周辺エリアプロモーションプロジェクト「Wander SANNOMARU (ワンダーサンノマル)」は、施設プロモーションやその日限りのイベントではなく、三之丸町周辺エリアの賑わいが日常化する風景をつくること。それぞれの事業をつなぐ、街の行間となる路地やパブリックスペースでの賑わいを協力して生み、育てるプロジェクト。各事業のハレの日や、街のイベントを最大化するために連携をとり、賑わいが日常化することをビジョンにもち活動していく。

ウォーカブルなまち三之丸

ワンダーとは「歩き回る、(目的・道順なしに)ぶらぶら歩く」の意味がある。三之丸町周辺エリアのストリートを歩き、回遊する楽しさ、それがまちでの出会い、交流することの楽しさにつながり、関係人口・交流人口の増加をめざす。

Wander SANNOMARU
ワンダーサンノマル



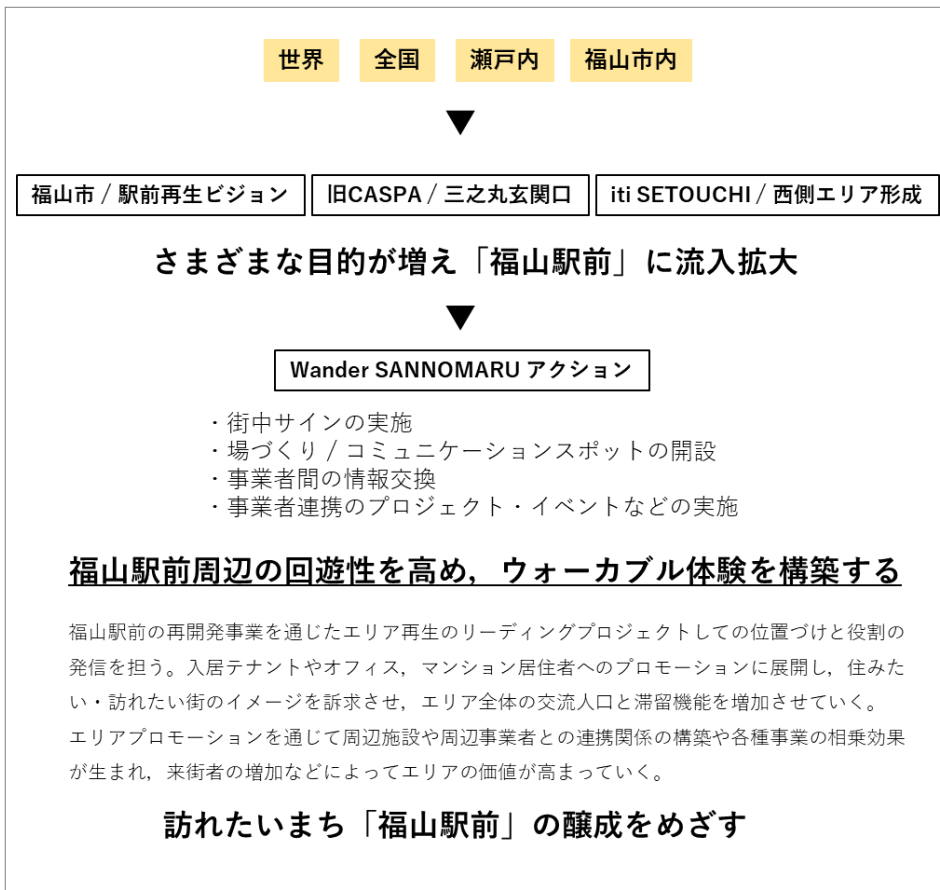
まちを歩こう、
未来をはじめよう

“ワンダーサンノマル”が描く線は
まちを訪れ歩く人の軌跡

人が集い、つながり、交わる
その軌跡がサンノマルを育て
未来につながる

まちを(遊び場)に
みんなの(憩いの場)に
そして(交流の場)に

さあ、まちを歩こう、
未来をはじめよう



図表25 今後のエリアプロモーションビジョン



III エリアビジョン

◆三之丸町周辺エリアプロモーションプロジェクト「Wander SANNOMARU」

(今後の展開予定)

まちなかエリアサインの拡充

施設間の相互利用とまちなかの回遊を後押しする、まちなかサインを展開。プロジェクトの認知と機運向上のためエリア中に「プロジェクトシンボルを掲出」し、ウォーカブルなまち歩きを後押しする「誘導サイン」の設置を計画する。

A.認知と機運向上のためエリア中に「プロジェクトシンボルを掲出」

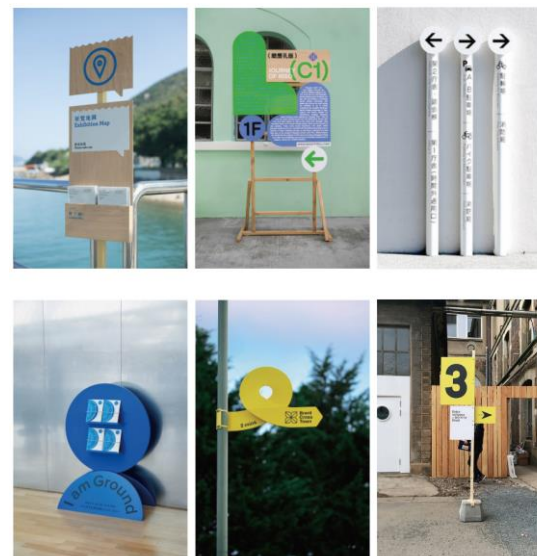
プロジェクトの認知向上と活動への理解を促進するため、三之丸通りを中心にまちの各所にプロジェクトシンボルを掲出



運営事業者より提供

B.ウォーカブルなまち歩きを後押しする「誘導サイン」の設置

エリア内の回遊を促す、施設間をつなぎ、まちを紹介するまちなか誘導サインの設置を検討



運営事業者より提供

III エリアビジョン

◆ 三之丸町地区優良建築物等整備事業

三之丸町地区（旧キャスパ等跡地）において、官民が連携して、福山市の玄関口にふさわしい魅力とにぎわいの創出を図り、駅周辺のエリア価値を向上させる。
歩いて楽しい空間づくりの観点から、敷地内に公共用通路を整備し、駅から三之丸町や西町への回遊性を生み出す。

2024年3月竣工。2024年9月グランドオープン。

事業の特徴

①地域の顔となる施設づくり

独立した3棟の2階部分をデッキで繋げ、**施設内の回遊性を高めるほか**、床仕上げ材を統一することで一体感を醸成し、歩道や駅前広場とシームレスにつなげる。**また、北棟11階には、災害発生時の帰宅困難者の一時滞在施設が設けられている。**

②三之丸町周辺エリア全体の活性化

敷地内の公共用通路や広場を活用して賑わい創出を図り、iti-SETOUCHI（エフピコRiM 1階）や周辺の店舗などと連携することにより、三之丸町周辺エリア全体の活性化に寄与する。

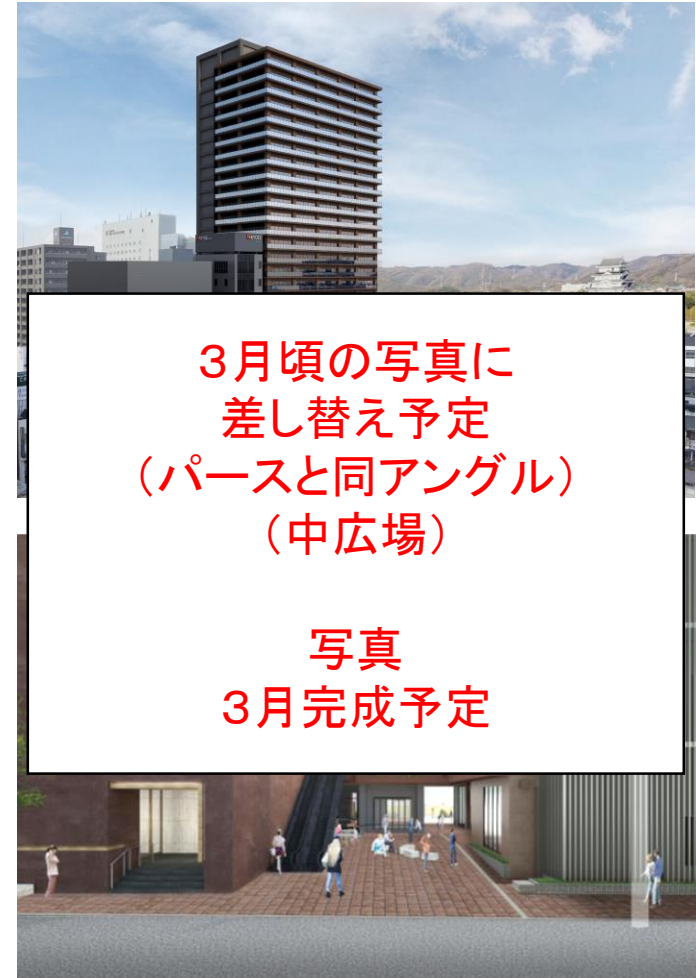
施設の概要

棟	北棟	中棟	南棟
階数	地上25階	地上10階	地上7階
用途	1～2階 商業施設		
	3階 事務所等 4～25階 マンション	3～9階 事務所 10階 商業テナント	3～7階 事務所

図表26 施設の概要

事業のコンセプト

- 福山の未来を予感させる場
- 今までにない交流の場
- エリアの価値を高めるきっかけの場



III エリアビジョン

◆ OPEN STREET FUKUYAMA

福山市の中心である福山駅前のにぎわい創出、回遊性向上に向けた歩道空間を活用した社会実験。「ミチ」をきっかけにした楽しい「マチ」づくりに向け、新たな居場所づくりとして屋外カフェの常設や定期的なマーケット開催の実験を実施する。



◆ 歩行者利便増進道路制度（ほこみち）※16

歩道等の中に歩行者の利便増進を図る空間を創出し、道路空間をより柔軟に活用できるようにすることで、民間事業者による道路空間の活用を促進する。



歩道を活用したオープンテラス（福山駅前商店会）

◆ 駅前交番移設

駅前が市内外から訪れる人にとって安心して過ごせるような空間となるよう、交番の位置の分かりやすさや道路交通、駐車スペース等の視点からJR福山駅西送迎専用駐車場内の一部及び植栽地部分への移転を行った。

◆ 東桜町地区雨水管渠整備事業

今後、人口の集中も予想される東桜町地区において、大雨の際に発生する浸水被害軽減に向け、雨水幹線へのバイパス管を整備する。

◆ 公共空間の新たな活用

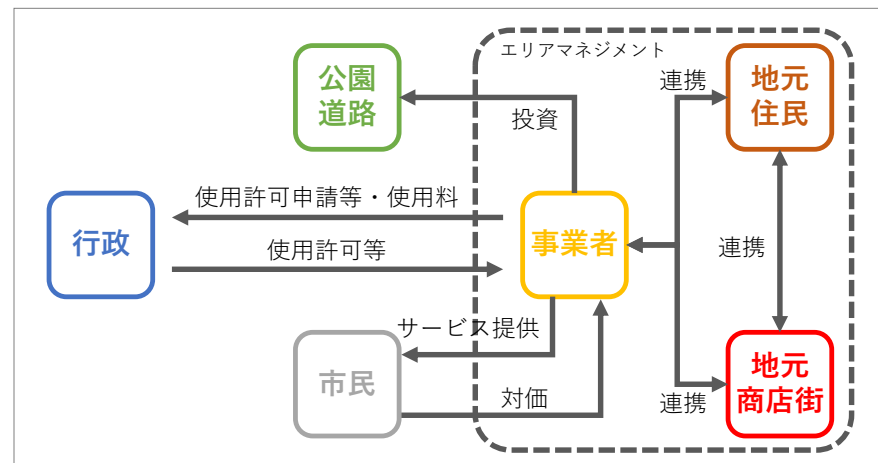
道路や公園などの公共空間を人を中心とした多様な活動が行われる空間に転換することで、人と人が出会い・交流できるウォークアブルなまちの実現を図るとともに、公共空間の活用によって得られる利益をまちに再投資する仕組みづくりを促す。

◆ 公園等利活用促進事業（三之丸町周辺エリアでの取組）

人の豊かな生活にとって重要な公園を活用し、駅周辺のエリア価値を高める。さらに、公園の運営を通し、公共空間を活用して利益を生み出す仕組みづくりや自立したエリアマネジメントを行う組織体の創起を促す。



公園の風景（三之丸公園）



図表27 道路や公園の活用を通じたエリアマネジメントの仕組み（イメージ）

III エリアビジョン

05 中央公園周辺エリア

AREA VISION 多様な知識や文化が融合する学びの拠点

エリアイメージ

- 中央公園の緑の空間が育む豊かな日常風景のあるエリア
- 中央図書館が持つ学びと活動を通じた多世代の交流拠点
- 中央公園と中央図書館からにじみ出る居心地の良さとにぎわいが感じられる通り

取組の方向性

- ✓ 中央公園Park-PFI事業により、地域の商店街などと連携し、子どもから大人までが学び、活動する場として、日常の暮らしをより豊かにする公園を形成する。
- ✓ 図書館をビジネスや地域課題の解決の支援などを行う人や情報の交流の場とする。
- ✓ 中央公園と中央図書館の相乗効果が生み出す居心地の良さと、霞通りの活性化により、霞通りや久松通りなどへの回遊性を生み出す。

関連事業のロードマップ

柱-戦略-取組		事業名	関係者	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	~2029(R11)	
1	2 iv	3 iv	4 iv	5 iv	6 i	7	中央公園Park-PFI事業【公園緑地課・民間事業者】	公共	民間	整備工事 → 供用開始
1 ii	2 vi	3	4	5 ii	6	7	市民の学び支援サービス(子育て、ビジネス、教育などの分野、電子図書貸出サービス)【中央図書館】	公共	民間	電子図書貸出サービスの実施(試行期間) → 電子図書貸出サービスの実施
1	2 i	3	4 iii	5	6	7	ローズコム(一部)のWi-Fi整備【ICT推進課】	公共	民間	構築完了 → 運用開始
1	2 iii	3 iv	4 vi	5	6 i	7	道路空間の活用(歩行者利便増進道路制度(ほこみち)(再掲)【土木管理課・民間事業者】	公共	民間	制度構築 → 運用開始

※各事業の内容は、今後変更となる可能性があります。

エリアマップ



※歩行者利便増進道路制度(ほこみち)は、指定区間を示しています。 図表28 中央公園周辺エリアマップ

図表29 中央公園周辺エリアのロードマップ

III エリアビジョン

◆ 中央公園Park-PFI事業

中央公園へのPark-PFI導入により、民間事業者のノウハウを活用した公園施設の設置、維持管理により、公園と図書館の利用者の利便性を向上させ、新たな公園の使い方による、にぎわいを創出する。

ガーデンレストランオープン後、中央図書館が隣接している立地を生かし、図書館と連携したイベントの開催など、新たな公園の使い方によって新しい人の流れが生まれつつある。その流れを商店街との連携を通じて、駅周辺へと波及させていくことをめざす。

ガーデンレストラン「Enlee」

2021年5月に民間事業者の投資により建設されたガーデンレストランがオープン。約50席の座席数とテラスを設け、公園の緑を楽しみながら開放された空間で飲食をすることができる。

暮らしに寄り添った市民参加型イベント「NIWASAKI」

事業者を中心に公園の利活用を推進するチームを結成。「日常の豊かさに重心を置き、暮らしをアップデートする」をコンセプトに地域を巻き込みながら様々な企画イベントを定期開催している。屋外図書コーナーの設置や図書館司書による読み聞かせなど、図書館と連携した取組も行っている。



◆ 市民の学び支援サービス

市民が日常生活を豊かに送るために必要な資料や情報を提供し、学びを支援する（子育て、ビジネス、教育などの分野）。

多様化するニーズへの対応や外国語資料の提供を図るため試行実施した電子図書貸出サービスは、2022年度（令和4年度）までの試行期間を終え、電子雑誌や児童向けのコンテンツを充実させ、2023年度（令和5年度）以降も継続実施する。

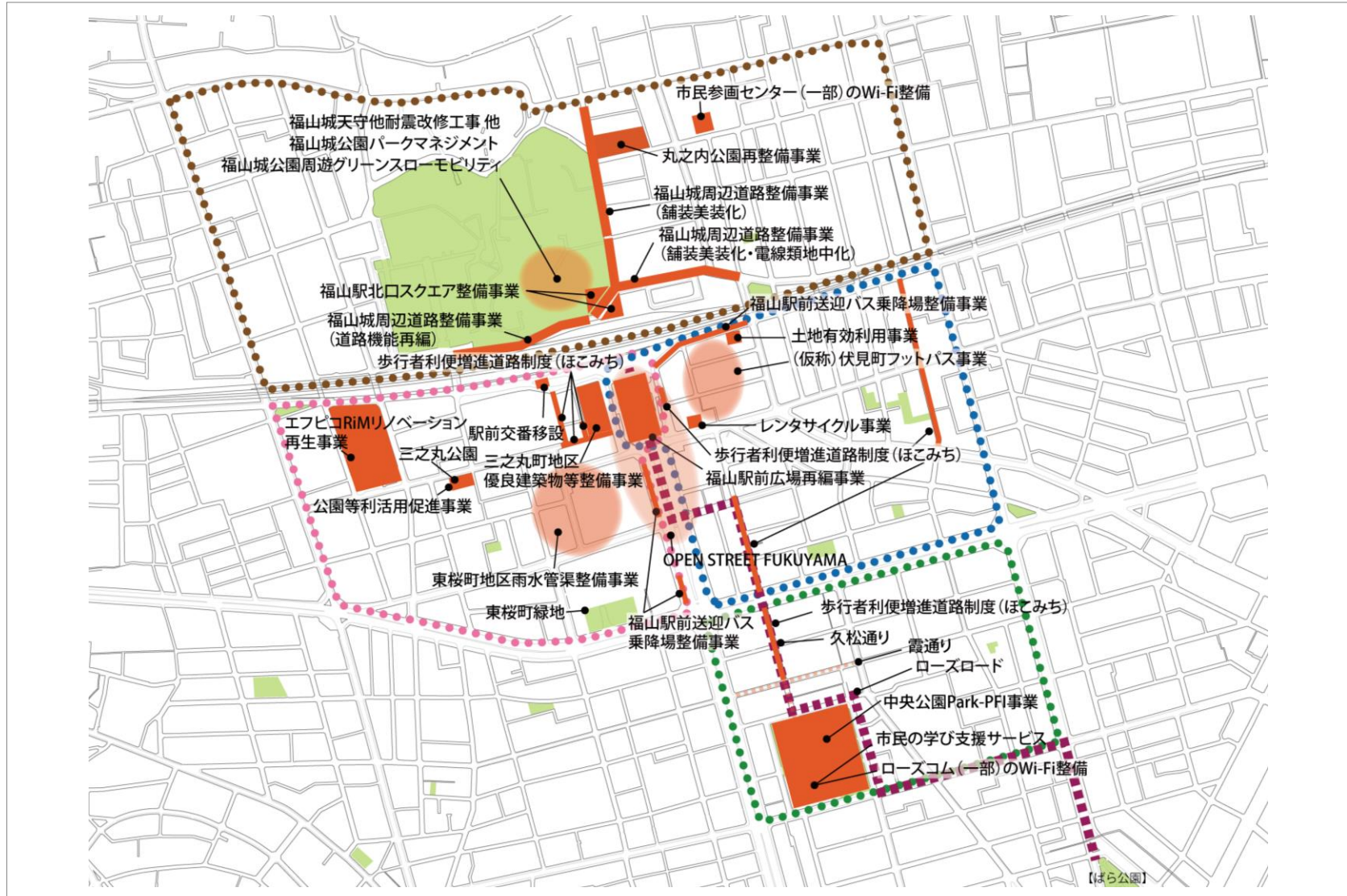


◆ ローズコム（一部）のWi-Fi整備

施設利用者の利便性の向上を図るため、ローズコム4階の会議室（大会議室、中会議室、小会議室）に、フリーWi-Fiを整備した。

III エリアビジョン

06 各エリアの関連事業 (全体図)



※歩行者利便増進道路制度 (ほこみち) は、指定区間を示しています。

図表30 各エリアの関連事業 (全体図)

III エリアビジョン

07 4つのエリアに共通して行われる事業と周辺地域と連携して行われる事業

駅周辺再生に資する事業のうち、「4つのエリアに共通して行われる事業」と「駅周辺と周辺地域が連携して行われる事業」を示します。

4つのエリアに共通して行われる事業

柱-戦略-取組	事業名	事業内容	関係者	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	~2029(R11)
1 2 iii 3 i 4 iv 5 6 iii 7	福山駅前広場再編事業（再掲） 【福山駅周辺再生推進部・都市部・土木部】	P.17参照	公共 民間	機能検証	基本方針検討 ●協議会設立	基本方針策定 ●協議会開催 ●シンポジウム開催 実証実験の実施	基本計画策定 ●協議会開催 ●シンポジウム開催		調査・設計・施工
1 2 vi 3 4 i 5 6 7	特定用途誘導地区の指定 【都市計画課】	敷地内に駐車場を設けない建築物等で、店舗や飲食店等の誘導施設を併設したものの容積率の緩和を行う区域等の指定を行う。	公共 民間		調査・検討			地区の決定手続き	効力発生
1 2 iv 3 ii 4 5 6 7	駐車場配置適正化区域の指定 【都市計画課】	歩いて暮らせるまちの実現に向け、駐車場の配置を適正化する区域等の検討を行った結果を基に、「建築物における駐車施設の附置等に関する条例」の改正を行う。	公共 民間		調査・検討			条例改正手続き	効力発生
1 2 vi 3 iv 4 iv 5 6 7 ii	屋外広告物の誘導による景観形成 【土木管理課】	街区や通り毎に屋外広告物について、地元のコンセンサスを得ながら良好な景観形成を誘導する。	公共 民間			街区や通り毎の景観形成に対する機運の醸成、誘導			
1 2 vi 3 v 4 5 6 iii 7	路上喫煙制限区域の指定による分煙空間の創出事業 【廃棄物対策課・健康推進課】	駅周辺における路上喫煙制限区域の指定に併せて、市民等へ周知・啓発を行い、たばこのポイ捨てや受動喫煙等を防止することで、快適に過ごせる空間を創出する。	公共 民間	調査・検討（路上喫煙制限区域・喫煙所設置場所）	協議会設立 12月条例改正	喫煙所の整備 路上喫煙制限区域の指定・周知啓発			
1 2 iv 3 iii 4 v 5 iv 6 i 7	公園等利活用促進事業（再掲） 【福山駅周辺再生推進課・民間事業者】	P.29参照	公共 民間			公園等の利活用を促進・支援			
1 2 3 iv 4 5 6 v 7	ウォークアップ税制 【福山駅周辺再生推進課】	P.35参照	公共 民間		申請手続（期限2026.3）	特例軽減期間（最長2031年度分まで）			
1 v 2 v 3 vi 4 ii 5 i 6 iv 7	リノベーションまちづくり 【福山駅周辺再生推進課・産業振興課・都市計画課】	リノベーションまちづくりを行う人材の育成と都市再生推進法人やまちづくり会社の組織づくりに向けた支援を行う。	公共 民間		福山駅前アクション会議、エリアプロデュース&マネジメント講座の開催	エリア価値創造フォーラムの開催 エリアマネジメントワークショップ			・リノベーションまちづくり講習会等の開催 ・都市再生推進法人化の支援
1 ii 2 3 4 iv 5 6 7	福山ビジネスサポートセンター Fuku-Biz事業 【産業振興課】	専門家によるビジネスコンサルを通し、売上向上・創業支援に重点を置き、事業者の「稼ぐ力」を高める。	公共 民間			経営相談			
1 i 2 iii 3 4 5 6 7	企業誘致の推進 【企業誘致推進課】	企業動向の情報を収集し、県・市の助成制度を活用するなかで、駅前再生の推進に合わせた積極的な企業誘致活動を行う。	公共 民間		県・市の助成制度の運用				

III エリアビジョン

4つのエリアに共通して行われる事業

柱-戦略-取組							事業名	事業内容	関係者	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	~2029(R11)
2 iv	3 iii	4 vi	5	6	7 i	ばらのまち福山PR活動事業 【世界バラ会議推進室】	ばらのまち福山PR大使「ニコライ バークマン」監修による福山駅アートプロジェクトやローズロードの整備など、ばらのまち福山のPR活動に取り組む。	公共 民間	福山駅アートプロジェクトの実施	ばらのまち福山PR活動					
1	2	3 iii	4	5	6	7 v	多言語案内表示整備推進事業 【観光課・世界バラ会議推進室】	インバウンド受入環境整備のため、世界バラ会議福山大会を見据えたローズロードを中心とする多言語案内標識等を整備する。	公共 民間		ガイドライン・整備計画策定	ローズロードへの案内サイン整備		ローズロードの路面プレート整備	●2025年5月世界バラ会議福山大会開催
1	2	3 iii	4	5	6	7 v	福山駅観光案内所リニューアル 【観光課】	P.35参照	公共 民間			改修工事		多言語での観光案内	
1	2	3 iii	4	5	6	7 ii	世界バラ会議福山大会を通じたレガシー創出 【世界バラ会議推進室】	世界バラ会議福山大会の開催を契機として、「ばらのまち福山」の玄関口にふさわしいばらの植栽のあり方を検討し、大会終了後も後世に残せる整備や活動など、全庁体制で取り組む。 ①ローズロード等ばらの植栽の充実 福山駅からばら公園までばらを楽しみながら歩けるよう、ばらの植栽デザイン計画を策定する。	公共 民間	対象事業の調査	各課で事業実施				●2025年5月世界バラ会議福山大会開催
1	2	3	4 v	5 i	6 iii	7	UR都市機構によるコーディネート 【UR都市機構】	P.20参照	公共 民間				実施		
1 i	2 iii	3	4	5	6 i	7	福山駅周辺新モビリティサービス実証事業 【都市交通課・福山駅周辺再生推進課・産業振興課】	P.35参照	公共 民間	福山城周辺エリアでのグリスロ運行		グリスロ運行によるエリア内の移動支援と、店舗・施設などのサービスを連携させる新たなモビリティサービスの検証			エリア内での民間主導による事業化
1	2 iv	3	4	5	6	7	キッズコム・えほんの国の運営 【ネウボラ推進課】	キッズコムを市中心部の商業施設に移転する。「えほんの国」も同じ施設で再開し、一体的に運営することで親子が集い、絵本に親しみ、楽しめる場所を提供する。	公共 民間		開館				
1	2	3	4	5	6 iii	7	災害時の帰宅困難者等への対応 【危機管理防災課】	駅周辺に滞在する住民等への情報提供や一時滞在が可能な場所の確保等に努める。	公共 民間				情報提供、一時滞在が可能な場所の確保		
1 ii	2	3 ii	4	5	6	7	MICEの推進 【経済総務課】	P.35参照	公共 民間	福山市MICE戦略公表 福山市MICE推進協議会設立		MICEの誘致・受入			●2025年5月世界バラ会議福山大会開催
1	2	3	4	5	6	7 ii	官民連携による情報発信 【福山駅周辺再生推進課・情報発信課・民間事業者】	P.35参照	公共 民間			●愛称決定 SNS等を活用した情報発信			

※各事業の内容は、今後変更となる可能性があります。

図表31 4つのエリアに共通して行われる事業

III エリアビジョン

◆ 官民連携による情報発信

駅周辺再生の取組・イベント情報などを周知し、集客の増加やまちに対する誇り・愛着の醸成、さらにはまちの印象やイメージに共感したり興味を持ったりした人や企業の流入などにつなげ、エリア価値を高める。

◆ ウォークابل税制

民間建物の路面階などをガラス張り・オープン化した場合などに固定資産税等を特例軽減（5年度分）することで、居心地が良く歩きたくなる空間づくりを推進する。

◆ 福山駅周辺新モビリティサービス実証事業

ウォークابلエリアが、誰もが移動しやすく、人の交流が活発になるように、福山城公園周遊グリーンスローモビリティの運行エリアを順次拡大し、また、店舗・施設・企業などの様々なサービスと連携させる新モビリティサービス事業の実証実験を行う。

◆ 福山駅観光案内所リニューアル

福山駅観光案内所の機能充実を図り、外国人観光客や障がい者対応など、ユニバーサルデザインに配慮した誰もが安心して利用できる観光案内所をめざす。



◆ 多言語案内サインの整備

世界パラ会議福山大会をはじめインバウンドへの対応としてローズロードを中心とするエリアへ多言語案内サインの整備を行い、言語バリアフリーな移動環境を実現する。



◆ MICEの推進

福山駅周辺エリアMICE

駅周辺に点在する文化施設や宿泊施設をつなぎ、エリアを一つの会場に見立て、市内周遊型の「エリアMICE※17」を推進する。

ユニークベニューを活用したMICE

駅周辺に点在する文化施設などを福山らしさ溢れるMICE会場として提案し、誘致活動を行う。



ユニークベニュー※18として駅周辺の文化財を活用

◆ 福山版ナイトタイムエコノミーの推進

夜間帯を含めたイベントの開催や文化施設の開館時間の延長などに関する福山版ナイトタイムエコノミーの基本方針を策定・施行し、情報を発信する。



III エリアビジョン

周辺地域と連携して行われる事業

柱-戦略-取組							事業名	事業内容	関係者	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	~2029(R11)
	2	3	4 v	5	6	7 iii	観光プロモーション事業【観光課】	食を通じたイベントやWebプロモーション等を展開し、観光消費額の増加を目指す。来訪意欲を高める。	公共 民間			情報発信			継続の検討
1	2	3	4 v	5	6	7 ii	外国人観光客への魅力発信事業【観光課・経済総務課】	外国人に対して波及力の高い福山市の観光資源を最適なプロモーションツールを活用し情報発信する。	公共 民間			情報発信			継続の検討
1	2	3	4 v	5	6	7 i	鞆の浦魅力発信推進事業【文化振興課】	鞆の浦の文化財や伝統文化を活用することで、日本遺産に認定された地域の活性化や国内外への情報発信、観光振興を図る。	公共 民間			情報発信			
1	2	3	4	5	6	7	びんご圏域総合プロモーション事業【観光課】	新たな観光コンテンツを開発し、備後圏域を周遊するプロモーションを実施し、広域観光の促進を図る。	公共 民間	「食」による観光コンテンツ開発		プロモーションの実施及び情報発信			
1	2	3	4	5	6	7 i	備後圏域プロモーション事業(連携中枢都市圏推進事業)【備後圏域連携推進室】	備後圏域の魅力や企業で働く若手社員の情報などをWebサイトやSNSで情報発信することで、若者の圏域内への定着やUターンを促進する。	公共 民間				圏域内企業・社員の取材記事やイベント、観光情報等の発信		
1	2	3 ii	4 iii	5	6 i	7 ii	福山版ナイトタイムエコノミーの推進【経済総務課・観光課・文化振興課】	P.35参照	公共 民間			各主体によるイベントの実施		基本方針の策定・施行	
1 ii	2 ii	3	4	5	6	7	ワーケーションふくやま(ワーケーション推進事業)【企画政策課】	首都圏等の人材・企業に福山市や備後圏域で働く・暮らすことの魅力を発信するとともに、地域資源にふれる機会を提供し、関係人口の増加につなげる。	公共 民間			体験者誘致に向けたプロモーションの実施			継続の検討
1	2	3	4 vi	5	6	7 i	都市ブランド戦略推進事業【情報発信課】	福山で生み出される創造性あふれる産品・サービスや素材・技術、取組・活動などを「福山ブランド」として発信する。	公共 民間			福山ブランドを活用した魅力創出			
1	2	3	4 vi	5	6	7 i	水産物ブランド化推進事業【農林水産課】	備後圏域の新鮮な水産物を『備後フィッシュ』とし、認知度の向上や魚食普及に向けたPR活動によりブランド化を推進することで、地魚の消費拡大と備後圏域の魅力向上をめざす。	公共 民間		備後フィッシュの食べられる店認定事業 ●漁師めし食堂		ブランド化推進事業の継続 ●第5回備後フィッシュフェス ●第6回備後フィッシュフェス		
1	2	3	4 vi	5	6	7 i	デニムプロジェクト【産業振興課】	デニム産地の認知度向上やデニムの魅力向上に向けた情報発信やイベントを実施する。	公共 民間			民間企業と連携して実施			
1	2	3	4 v	5	6	7 ii	大会・プロスポーツ等誘致及び賑わい関係事業【スポーツ振興課】	観るスポーツの誘致やスポーツイベントを開催し、スポーツ機運を高める。	公共 民間			誘致活動			

III エリアビジョン

周辺地域と連携して行われる事業

柱-戦略-取組		事業名	事業内容	関係者	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	~2029(R11)	
2 ii	3	4	5	6	7 ii	ばらのまち福山国際音楽祭事業【文化振興課】	ばらのまち福山から国際色豊かな演奏家たちによる個性豊かな音楽祭を開催する。	公共	民間	企画策定・音楽祭の実施	
1	2	3	4	5	6	7 i	世界バラ会議福山大会の開催事業【世界バラ会議推進室】	世界バラ会議福山大会開催のための実施計画策定や大会周知のための効果的なPR活動、機運醸成に取り組む。	公共	民間	実施計画策定 実施計画に基づき各種事業を実施 大会参加者登録受付開始・プレイベント開催他 ●2025年5月 世界バラ会議福山大会、Rose Expo FUKUYAMA 2025、ばら制定都市会議開催
1	2 i	3	4	5	6	7	福山・笠岡地域公共交通網形成計画【都市交通課】	福山市、笠岡市がまちづくりと連携して、誰もが移動しやすく、人の交流が活発になる地域公共交通の実現に向けた方針及び事業内容等を示す。	公共	民間	法改正など情報収集 計画の見直し 計画の実行
1	2	3 iv	4 v	5	6	7 ii	サイクリングロード整備・誘客事業【都市交通課・観光課・スポーツ振興課】	ルート案内看板の設置や路面標示等を行い、自転車を利用しやすい環境を整備するとともに、観光コンテンツとして発信を行い、市外からのサイクリストの誘客を促進する。	公共	民間	メインルートの案内看板設置・路面標示 サブルートの検討、整備など 組立場設置 運用開始 しおまち海道サイクリングロードプロモーション プロモーション継続検討
1	2	3 iii	4	5	6	7 i	福山市ガーデンツーリズム推進事業【観光課】	世界バラ会議福山大会を見据え、ばらガーデンをコンテンツとしたモデルコースを造成し、ガーデンツーリズムを推進する。	公共	民間	モニターツアーの実施(モデルコース) モニターツアー検証結果を踏まえ、モデルコースの再検討 ツアー実施
1	2 i	3	4	5	6	7	自動運転移動サービス実証事業【デジタル化推進課・都市交通課】	自動運転移動サービスの実装に向けた調査・実証実験を行う。	公共	民間	実装に向けた取組
1 iii	2	3	4	5	6	7	飲食店メニュー多言語化事業【経済総務課・公益社団法人福山観光コンベンション協会】	市内飲食店におけるメニューの多言語化を支援するため、活用店舗を募集し、主要メニューについて多言語表記したメニュー表を作成する。	公共	民間	実施
1	2	3	4	5	6	7 i	せとうちビジネスコンテスト【企画政策課】	多様な課題を解決し、瀬戸内エリアから社会・地域をより良くしたいと考える社会人・学生のビジネスアイデアを募集・選考し、地域を牽引する事業を創出する。	公共	民間	実施
1	2	3	4	5	6	7 i	地域未来ビジョンの策定支援【企画政策課・経済総務課・まちづくり推進課】	テーマやエリアごとに民間事業者・市民等が地域資源を活用して行う取組について、地域未来ビジョンの策定を支援し、地域の新たな魅力を創出する。	公共	民間	地域資源調査 説明会の実施 ビジョン策定
1	2 i	3	4	5	6	7	バス利用者拡大実証事業【都市交通課】	福山駅周辺で行われるイベント等と連携して、バス利用における料金抵抗感を軽減し、利用促進を図る。	公共	民間	路線バス運賃無料デーの実証事業 効果検証の結果より実施内容を検討

※各事業の内容は、今後変更となる可能性があります。

図表32 周辺地域と連携して行われる事業

IV ウォーカブルエリア

01 福山市のウォーカブルなまちづくり

駅周辺の再生によるウォーカブルなまちづくりは、単に歩行者を増やしたり、車両を排除したりすることが目的ではありません。公園や広場、建物の路面階、通りなどの空間を「居心地が良く歩きたくなる」ような人中心の空間に転換することを通じて、多様な人材との出会い・交流を誘発し、人や企業を惹きつける都市をめざすものです。

居心地が良く歩きたくなるパブリック空間

道路や公園、広場は、誰でも容易にアクセスでき、滞在できる開かれた空間です。これらの場所において、座って食事をしたり、話をしたりすることができるベンチやテーブル、心地よい風を感じる木陰空間、一人でも安心や心地よさを感じるプライベートな空間など、居心地が良いと感じる空間を増やすことでウォーカブルなまちに転換します。

また、建物の路面階をガラス張りにしたり、オープンな空間として前面の通りなどに開くことで、まちを歩く人にとって偶然の出会い・交流が生まれることが期待できます。また、コロナ禍においては、前面の通りの一部を店舗の客席などとして使用することができれば、その店舗の不動産の価値を高めることにもつながります。

官民が連携し、パブリックとプライベートの空間において、人中心の空間を増やしていくことで、人や企業を惹きつけるエリアをつくります。

多様な分野の施策との連携

ウォーカブルなまちづくりは複数分野を横断的に実施することが重要です。歩くことやコミュニケーションを誘発することは、心身の健康増進に寄与することが期待できます。また、グリーンスローモビリティなど新しい交通手段の検討・導入、新しい産業の育成などの分野と関連があります。単に歩行者を増やすのではなく、その先を見据えて多様な行政課題の解決に向けて取り組む必要があります。

IV ウォーカブルエリア

空間を一体的に捉える

駅や駅前広場は、多様な属性の人が集まる「まちづくりの中核」を担う場所であり、この場所が備えているポテンシャルを最大限効率的に発揮できるようにデザインすることが求められています。そのため、デザイン及びマネジメントを考える時には、周辺市街地との関係性も踏まえて、「備えるべき機能」「確保すべき空間」「活動を支える運営」を一体的に検討していく必要があります。駅や駅前広場、周辺市街地を個別に捉えるのではなく、施設の所有区分に関わらず、一体的に捉え検討することで、利便性・快適性・安全性・地域性を高め、エリア価値の向上が期待されます。

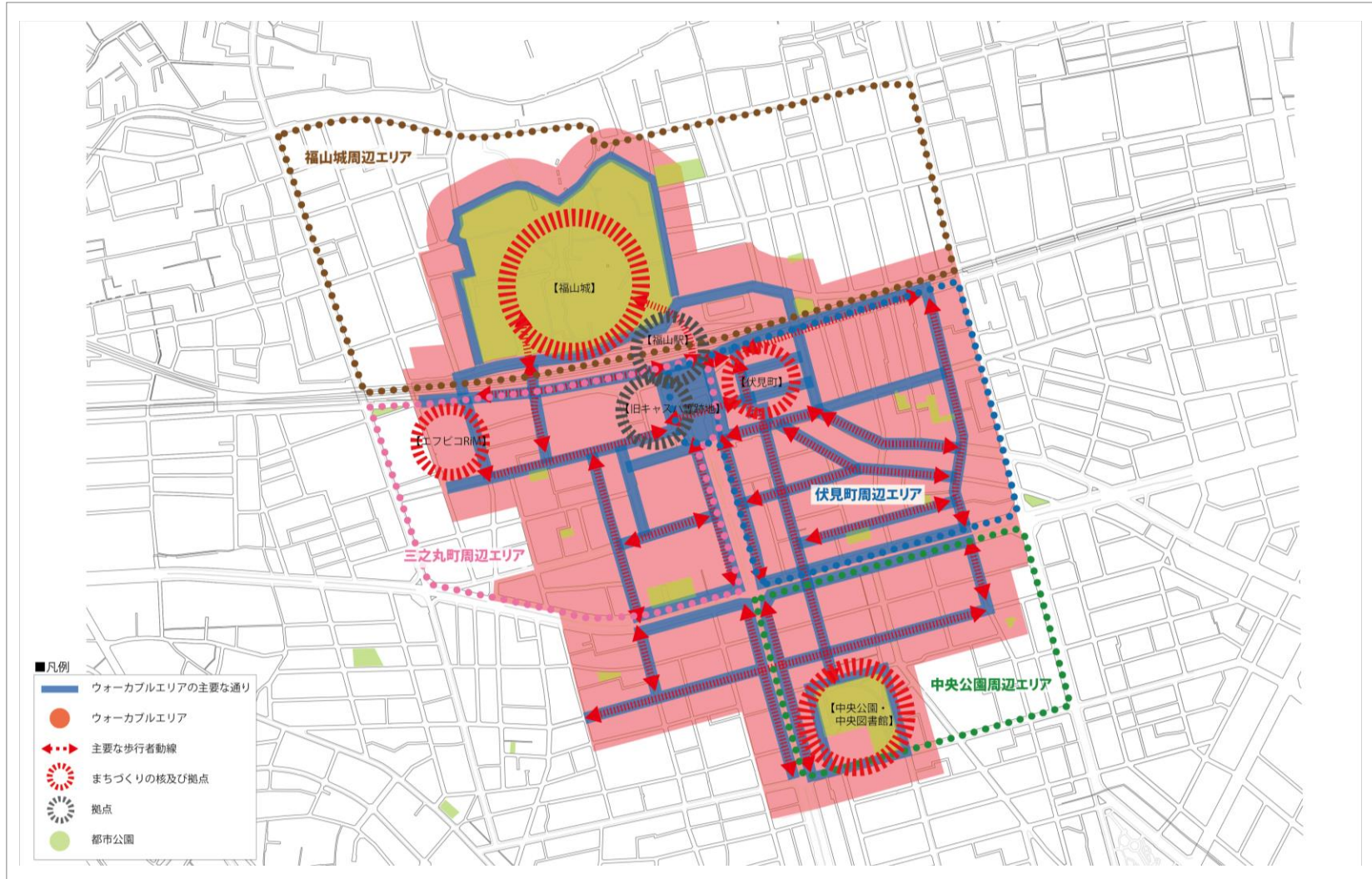


図表33 一体的に捉えるイメージ

IV ウォーカブルエリア

02 拠点とウォーカブルエリアの設定

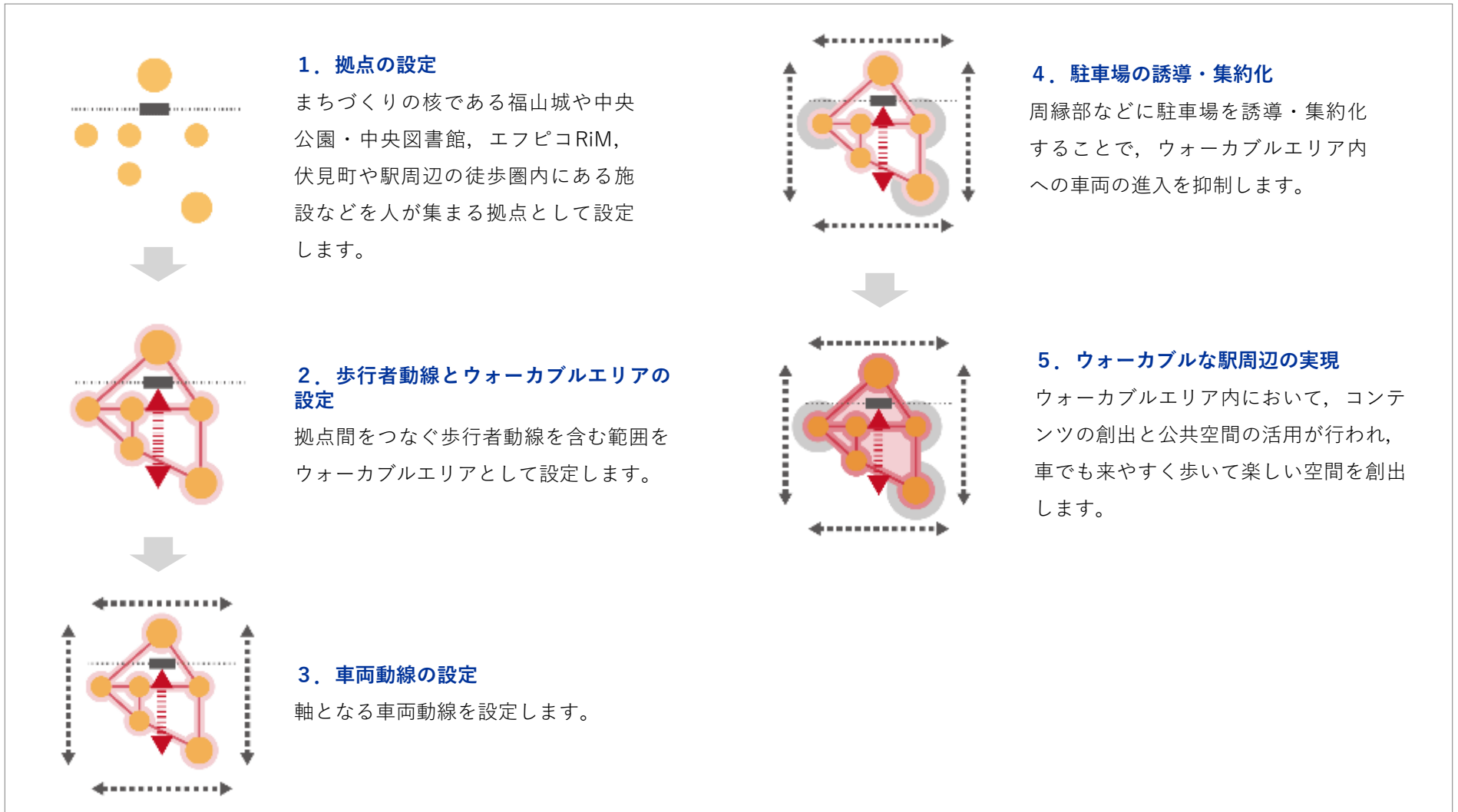
まちづくりの核である福山城及び中央公園・中央図書館，エフピコRiM，伏見町と福山駅，旧キャスパ等跡地の6箇所を人が集まる拠点として設定します。また，拠点周辺や拠点間をつなぐ主要な通りを含む範囲を居心地が良く歩きたくなる区域（ウォーカブルエリア）として設定します。



※主要な通りの道路端から概ね30mの区域，かつ，商業地域で建築物の容積率が500%以上の区域の一部をウォーカブルエリアとして設定

03 ウォーカブルな駅周辺の実現プロセス

次のようなプロセスでウォーカブルな駅周辺を実現します。拠点を中心に、新たな人の流れを生み出すとともに、一般車や公共交通、自転車、歩行者、グリーン・スローモビリティなどの新たな交通手段について、ウォーカブルエリア全体の交通計画を段階的に進めていく必要があります。



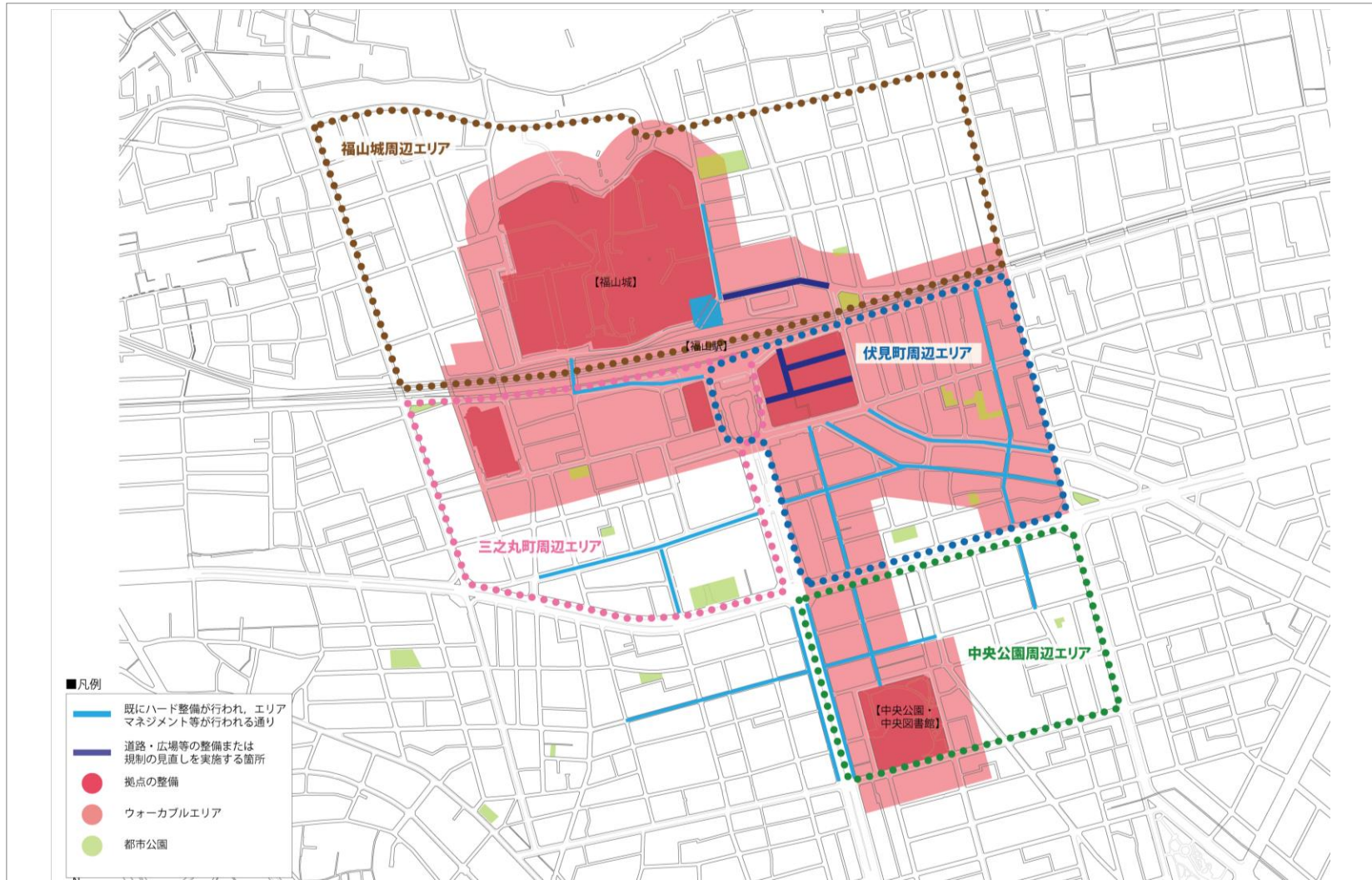
図表35 ウォーカブルな駅周辺の実現プロセス

IV ウォーカブルエリア

04 福山駅周辺の整備イメージ

設定したウォーカブルエリアの内、最初の10年間で優先的に投資などを行うエリア

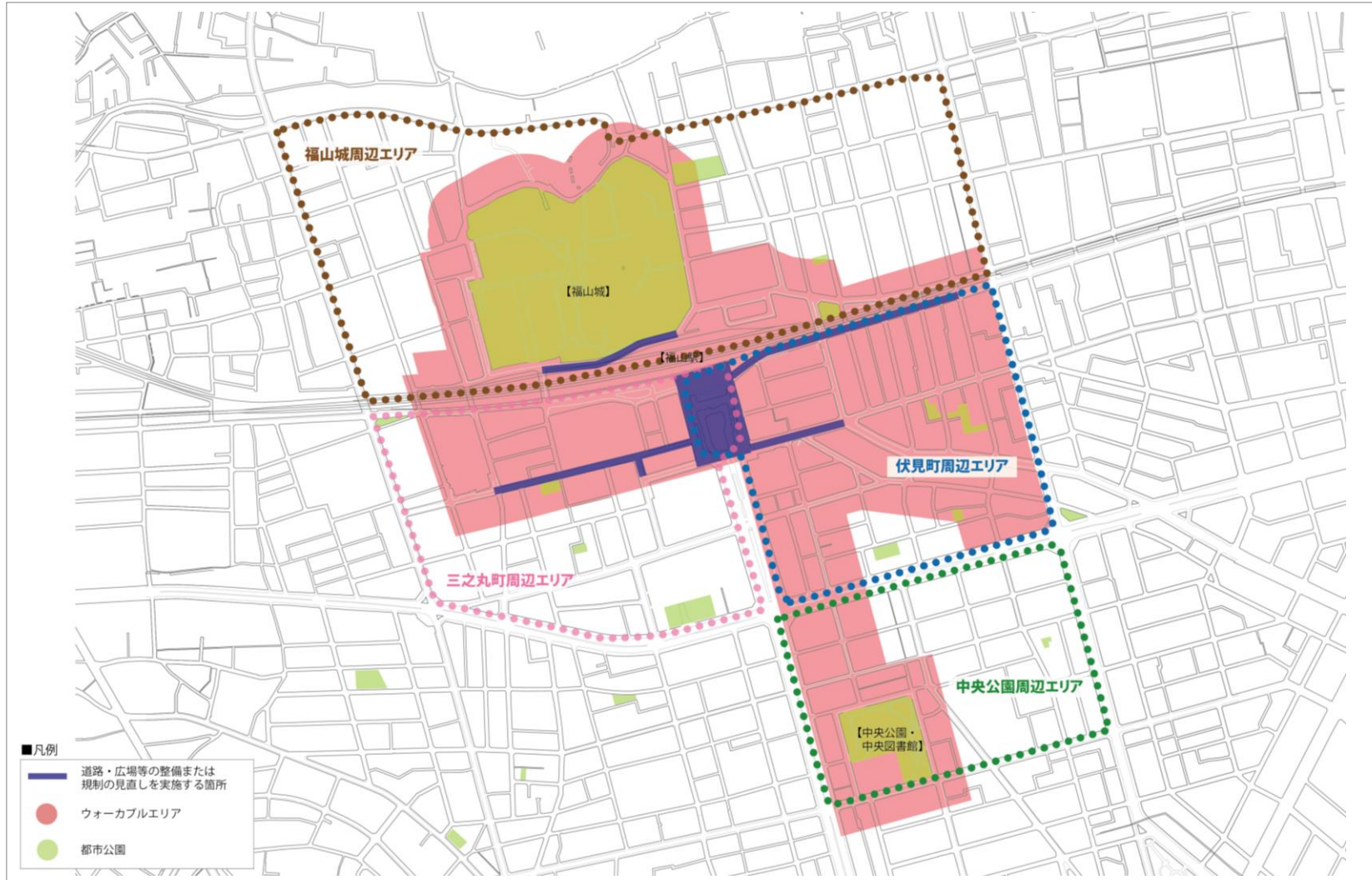
5年後（2020年度～2024年度）



※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

IV ウォーカブルエリア

10年後（2025年度～2029年度）

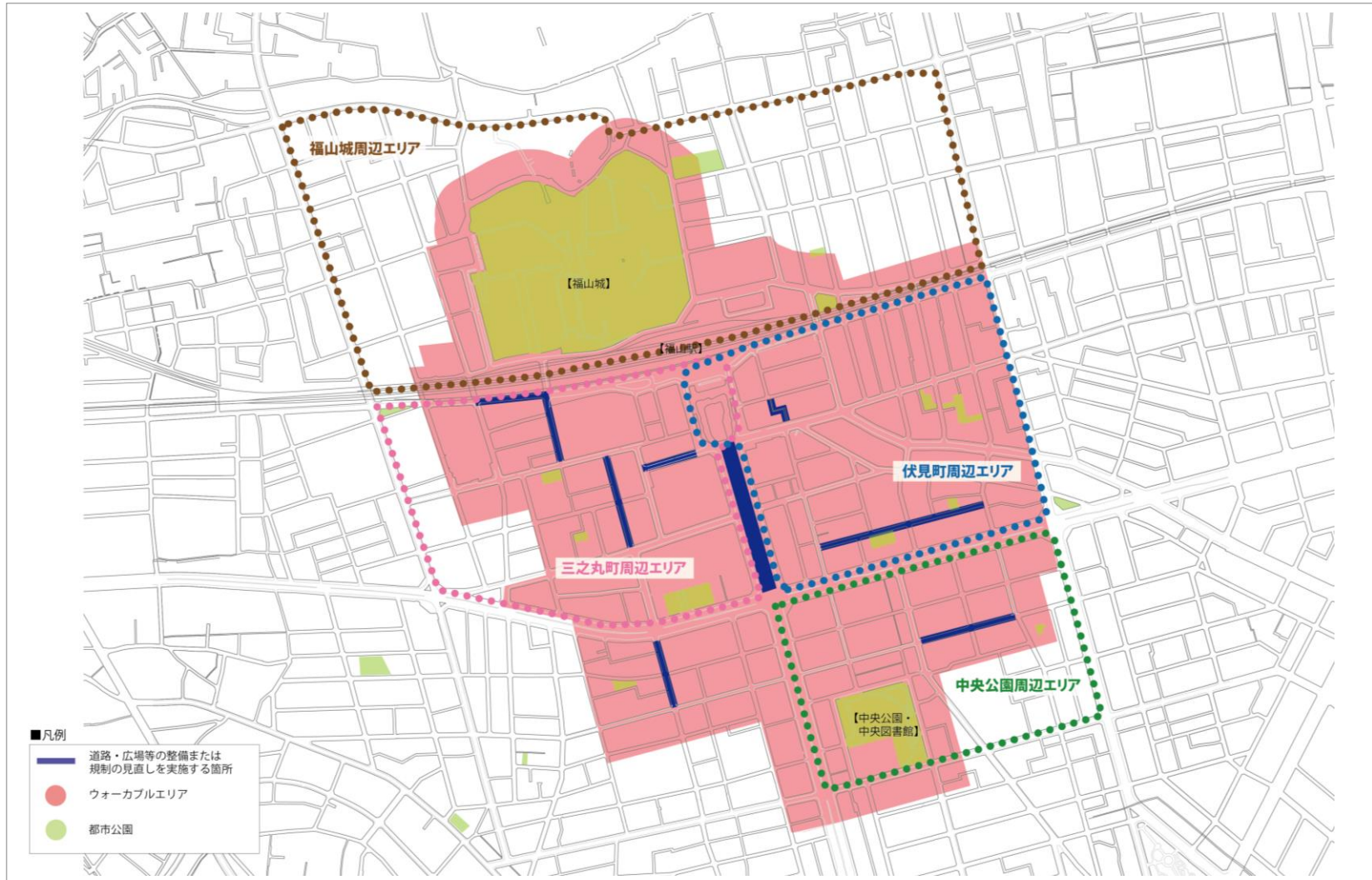


※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

IV ウォーカブルエリア

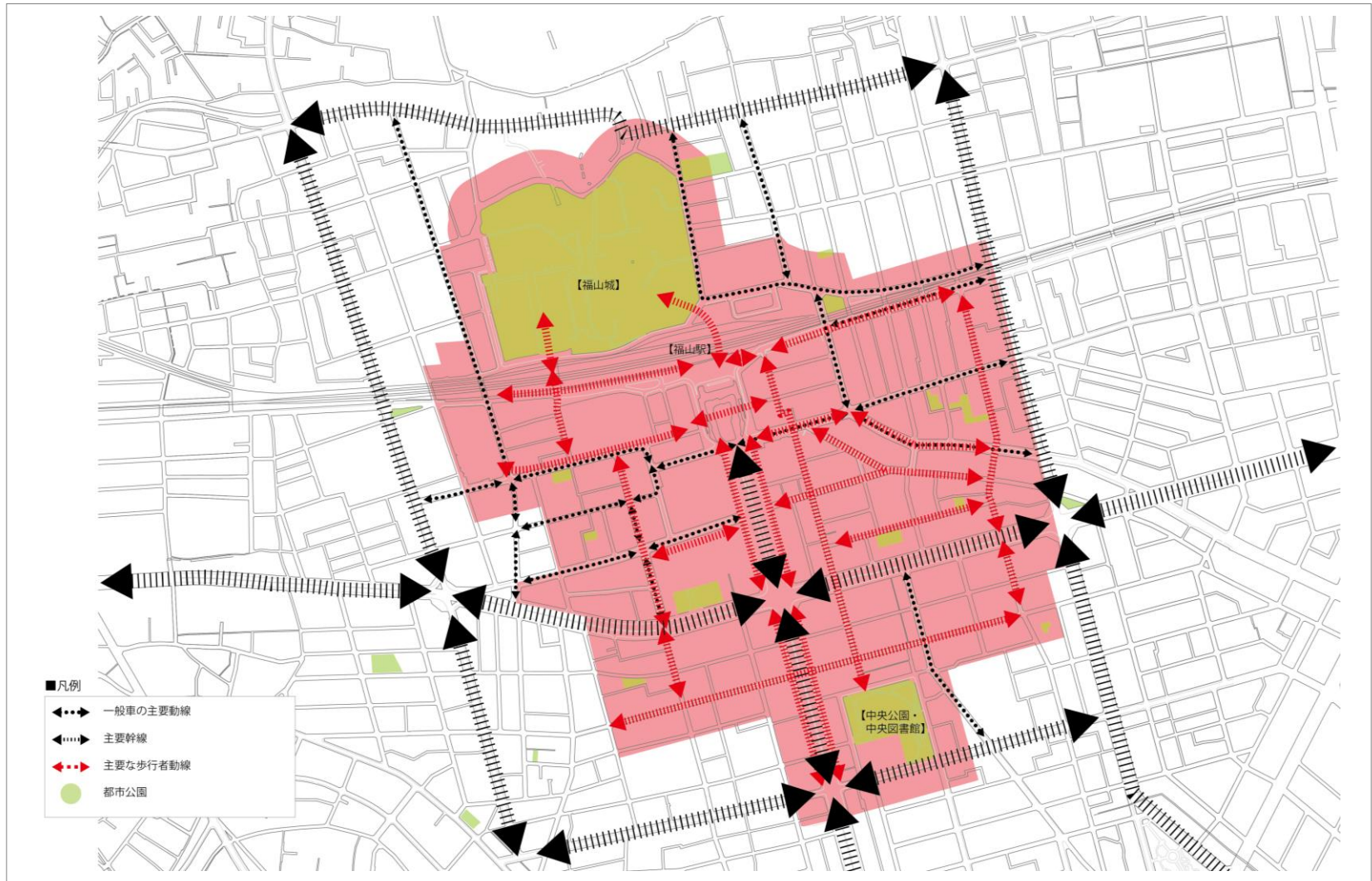
次の10年間で残りのエリアに投資を行うことで、歩行者動線を強化し、各エリア間の回遊性を高めます。

20年後（2030年度～2039年度）



※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

05 主要な歩行者・車両動線のイメージ



※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

図表39 主要な歩行者・車両動線のイメージ

06 事業の実施プロセス

ウォークブルなまちの実現に向け、人口減少やコロナ禍など不確実性の高い社会情勢においても、いかにデザイン計画の考え方に沿った事業を行っていくかが課題となります。そこで今後駅周辺で新たな取組を始める際のプロセスの一例を示します。公共空間整備だけでなく、民間事業を検討する際にも参考になると考えます。

Step1 将来像・課題の共有

街区や通りなどの小規模な範囲において、めざす将来像やその実現に向けた課題などを、関係する地権者や事業者などと共有することが必要です。

将来像や課題は、資産（土地・建物）の価値を維持、向上させるための活用策を一定のエリア単位で考えるものであり、今後起こり得る民間投資をゆるやかに誘導することにもつながります。地元団体などで将来像を話し合う際は、行政も同席し、一緒に考えることもできます。

Step2 試験的な取組

Step1の課題の解決に向けた取組を試験的に行います。

人口減少やコロナ禍など不確実性の高い社会情勢において、最初から大きな投資を行うのではなく、試験的な取組を重ねることで、社会情勢に応じた持続性のある事業とすることが重要です。当初から完成されたものをつくることをめざすのではなく、「使いながらつくっていく」という視点をもって取り組んでいく必要があります。具体的な使い方（ターゲットなど）をイメージし、コストと時間をなるべくかけず、スピーディに取組を重ねていくことが重要です。民間事業の場合でも、公共空間を活用した実験や一時的な利用が考えられます。

Step3 評価・反映

試験的な取組によって得られた成果などを踏まえて本格的な実施に向けた検討を行います。

新たな課題などが生じた場合や課題の見直しが必要な場合は、Step1に戻り、改めて将来像や課題について議論、共有することが必要です。

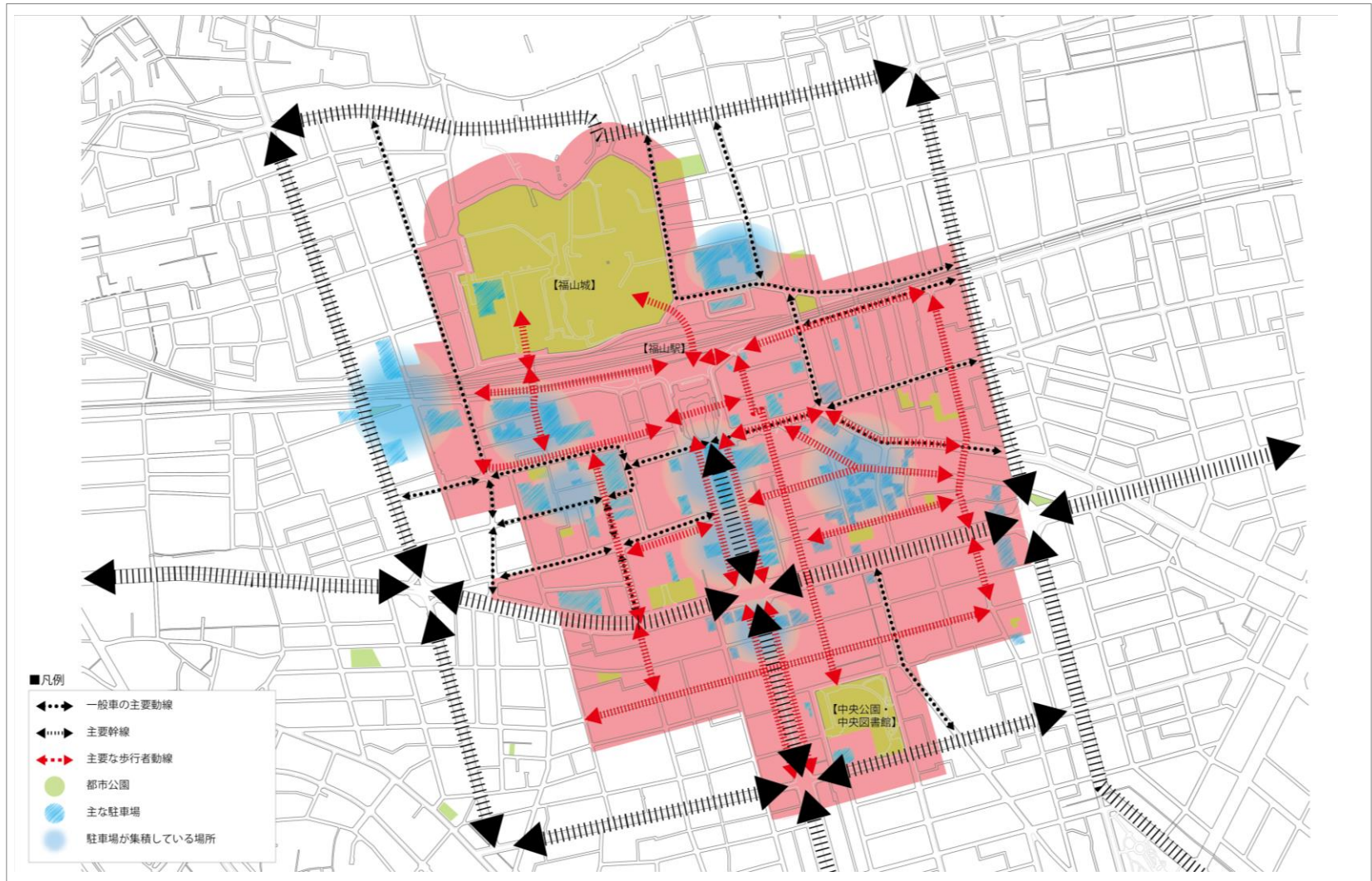
常に新しいことにチャレンジし、新しい環境に適合した取組を生み出そうとする動きを頻繁に起こすことで、まちの持続性を高めることにつながります。

Step4 本格実施

複数回の試験的な取組を重ね、本格実施の見通しが立てば、本格的な実施（整備）を行います。

その際にも今後の社会情勢の変化などに柔軟に対応できるよう、柔軟に事業内容を見直すことや汎用性のある空間デザインを取り入れることなどが重要になります。

07 駐車場が集積している場所

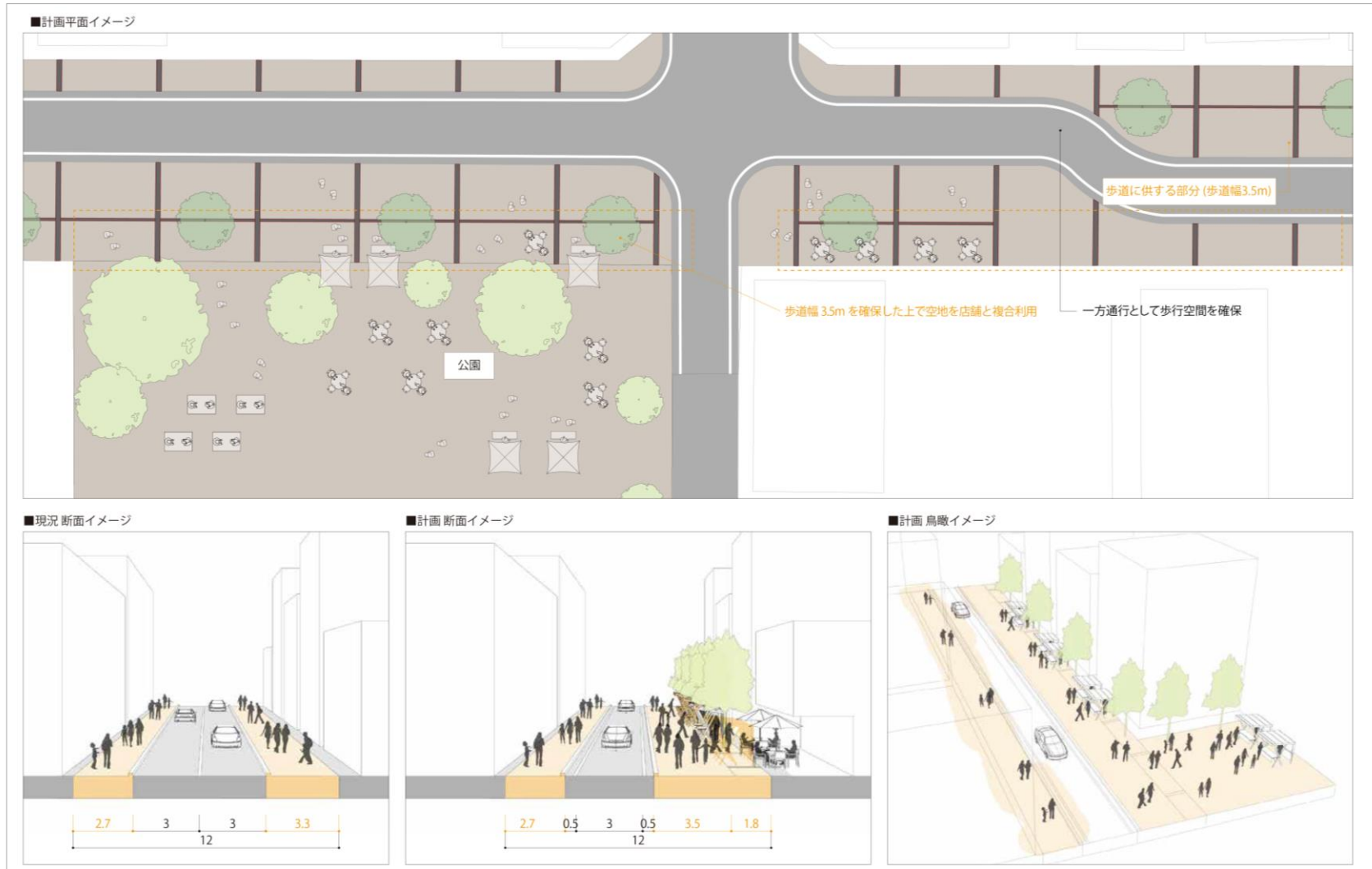


図表40 駐車場が集積している場所

IV ウォーカブルエリア

08 歩行空間のイメージ

路面階の店舗が通りに向けて開かれ、道路と公園が複合利用される歩行空間のイメージを示します。



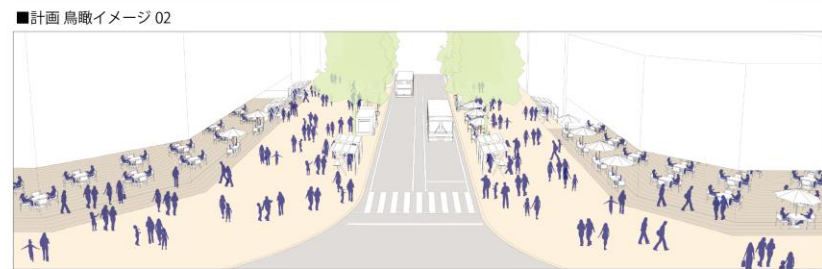
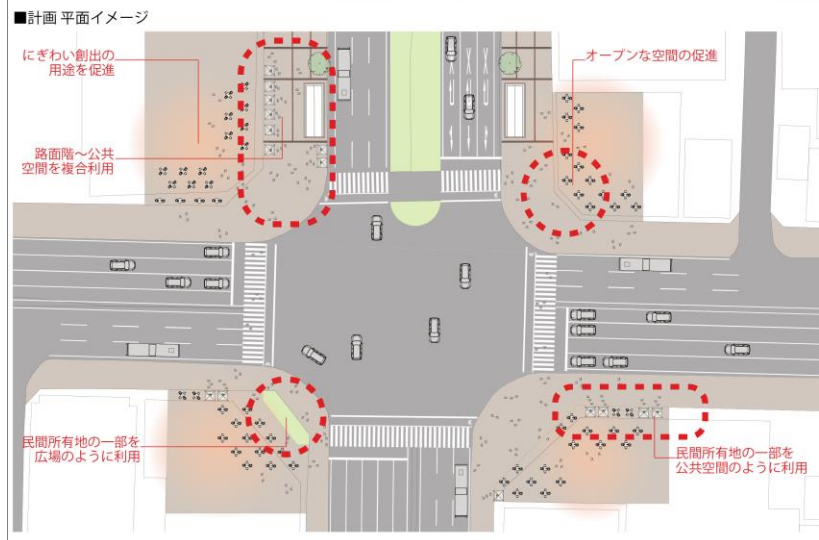
※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

図表41 歩行空間のイメージ

IV ウォーカブルエリア

09 交差点のイメージ

交差点の公共空間と路面階を複合利用することによって、交差点により分断されたエリアをつなぐイメージを示します。



※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

図表42 交差点のイメージ

IV ウォーカブルエリア

10 ウォーカブルなストリートのイメージ

ウォーカブルなストリートを形成するためには、官民が一体となって、道路や沿線の空間の使い方を変える必要があります。

◆歩道のある道路の場合

Before



After



道路空間の使い方の例

- ・車線数を減らすことによる歩道の拡幅
- ・一方通行化
- ・クランク・スラローム（速度抑制）
- ・座れる場所の整備
- ・道路緑化
- ・シェアドスペース※19 など

沿線の空間の使い方の例

- ・民地のオープンスペース化
- ・建物低層部の可視化・オープン化（ガラス張り化・オープンテラス化）など

IV ウォーカブルエリア

◆歩道のない道路の場合

Before



道路空間の使い方の例

- ・歩行者専用化（時間指定を含む）など

沿線の空間の使い方の例

- ・民地のオープンスペース化
- ・建物低層部の可視化・オープン化（ガラス張り化・オープンテラス化）など

After



図表44 ウォーカブルなストリートのイメージ②

01 働く・住む・にぎわいが一体となった福山駅前に向けて

このデザイン計画を官民が連携して進めていくことで、福山駅周辺のエリア価値を高め、福山市や備後圏域における都市のイメージを発信する拠点、経済活動や雇用を生み出し、観光客を始め備後圏域への訪問者を受け入れる産業・観光の拠点となり、福山駅前再生ビジョンが掲げる「働く・住む・にぎわいが一体となった福山駅前」を実現していきます。共に居心地の良いまちを創っていきましょう！



図表45 福山駅前再生ビジョン

参考資料

関連事業の成果指標

事業名	成果指標	当初現況値（年度）	最終目標（年度） 【達成状況】
福山城天守他耐震改修工事，展示リニューアル 【文化振興課】	1.福山城等の利用者数 2.福山市が力を入れている取組や地域資源の市民の認知度 3.福山市に関する事柄で首都圏在住者が知っているもの 出典：福山市情報発信に係るインターネット調査	①100,358人（2018年度） ②40.7%（2018年度） ③15.0%（2018年度）	①100,000人（2022年9月～2023年3月分） ②90%（2022年度） ③40%（2022年度） 【実績：①118,363人②77.6%③19.4%(2022年度)】
三之丸町地区優良建築物等整備事業 【民間事業者】	三之丸町内における流動客数	（平日）22,999人/日 （休日）28,721人/日 （2017年度）	（平日）31,500人/日 （休日）36,000人/日 （2024年度）
中央公園Park-PFI事業 【公園緑地課・民間事業者】	中央公園での一般参加可能イベント数	10件（2018年度）	15件（2021年度） 【実績：21件（2021年度）】
リノベーションまちづくり 【福山駅周辺再生推進課・産業振興課・都市計画課】	都市再生推進法人の指定件数（累計）	0件（2019年度）	4件（2024年度）
	伏見町の流動客数	（平日）881人/日 （休日）841人/日 （2017年度）	（平日）1,140人/日 （休日）1,190人/日 （2025年度）
福山駅前広場再編事業 【福山駅周辺再生推進部・都市部・土木部】	駅前広場の環境空間の割合	44%（2020年度）	50%以上（2039年度）
	ウォーカブルな空間の割合	35%（2020年度）※1 50%（2020年度）※2	43%（2039年度）※1 100%（2039年度）※2
公園等利活用促進事業 【福山駅周辺再生推進課】	公共空間の活用件数（累計）	1件（2019年度）	5件（2023年度）
福山・笠岡地域公共交通網形成計画 【都市交通課】	市内における公共交通機関利用者数	1,951万人（2015年度）	1,951万人（2021年度） 【実績：1,551万人（2021年度）】

（注）各事業の成果指標は、今後変更となる可能性があります。

※1 ウォーカブルエリア内の主要な道路等のうち、居心地が良く歩きたくなる空間となるよう、整備または規制の見直しを行う道路等の歩行空間の面積の割合

※2 ウォーカブルエリア内の主要な道路等のうち、居心地が良く歩きたくなる空間となるよう、整備または規制の見直しを行う道路等の延長の割合

関連事業の成果指標

事業名	成果指標	当初現況値（年度）	最終目標（年度） 【達成状況】
サイクリングロード整備・誘客事業 【都市交通課・観光課・スポーツ振興課】	サイクリングロード整備延長	—	10.5km（2020年度） 【実績：6.3km（2020年度）】
ばらのまち福山PR活動事業 【世界パラ会議推進室】	首都圏における「ばらのまちづくり」の認知状況 出典：福山市情報発信に係るインターネット調査	3.1%（2017年度）	20%（2025年度）
MICEの推進 【経済総務課】	市内におけるMICE開催件数	53件（2019年度）	77件（2025年度）
飲食店メニュー多言語化事業 【経済総務課】	多言語メニュー作成店舗数	—	300店舗（2024年度）
せとうちビジネスコンテスト 【企画政策課】	実現したビジネスアイデア数	—	5件（2024年度）
地域未来ビジョンの策定支援 【企画政策課・経済総務課・まちづくり推進課】	（仮称）地域未来ビジョン策定数	—	5件（2025年度）

福山駅前デザイン会議の開催経過

2018

第1回 福山駅前デザイン会議
日時：2018年（平成30年）5月21日（月曜日）

第2回 福山駅前デザイン会議
日時：2018年（平成30年）8月20日（月曜日）
議題：福山駅周辺の公共空間の近未来について～その課題と活用法～

2019

第3回 福山駅前デザイン会議
日時：2019年（平成31年）1月24日（木曜日）
議題：（仮称）デザイン計画の骨子（案）について

第4回 福山駅前デザイン会議
日時：2019年（令和元年）6月10日（月曜日）
議題：エリア価値を高める民間プロジェクトと公民連携プロジェクトについて

第5回 福山駅前デザイン会議
日時：2019年（令和元年）9月26日（木曜日）
議題：官民連携で福山駅前を歩いて楽しいまちなかに変える

2020

第6回 福山駅前デザイン会議
日時：2020年（令和2年）2月13日（木曜日）
議題：福山駅周辺デザイン計画（案）について
福山駅前再生に向けたエフピコRiM再生手法の基本的な考え方（案）について

パブリックコメント
期間：2020年（令和2年）2月18日（火曜日）から
2020年（令和2年）3月19日（木曜日）まで

福山駅周辺デザイン計画 策定・公表

第7回 福山駅前デザイン会議
日時：2020年（令和2年）6月1日（月曜日）
議題：エフピコRiM再生の進め方（案）について
都市再生推進法人の指定に向けた検討について

第8回 福山駅前デザイン会議
日時：2020年（令和2年）8月28日（金曜日）
議題：エフピコRiM再生事業運営事業者公募要項の骨子（案）について
福山における新しいオフィスの可能性について

2021

第9回 福山駅前デザイン会議
日時：2021年（令和3年）2月18日（木曜日）
議題：福山駅周辺デザイン計画の更新について
ウォークアブルな福山駅前広場のあり方について

福山駅周辺デザイン計画更新

2022

第10回 福山駅前デザイン会議
日時：2021年（令和3年）5月31日（月曜日）
議題：ウォークアブルな駅前広場の実現に向けて

第11回 福山駅前デザイン会議
日時：2021年（令和3年）8月23日（月曜日）
議題：福山駅前広場の環境空間のイメージを共有しよう

第12回 福山駅前デザイン会議
日時：2022年（令和4年）2月14日（月曜日）
議題：2021年度取組報告及び次年度に向けて
～福山駅周辺で起こっている出来事と将来～

福山駅周辺デザイン計画更新

第13回 福山駅前デザイン会議
日時：2022年（令和4年）6月1日（水曜日）
議題：官民連携による情報発信について

第14回 福山駅前デザイン会議
日時：2022年（令和4年）8月30日（火曜日）
議題：福山駅前広場整備の基本方針について
官民連携による良質な民間投資・公共空間の活用に向けて

2023

第15回 福山駅前デザイン会議
日時：2023年（令和5年）2月16日（木曜日）
議題：福山駅前広場整備基本方針（案）について

福山駅周辺デザイン計画更新

第16回 福山駅前デザイン会議
日時：2023年（令和5年）7月25日（火曜日）
議題：福山駅周辺の取組について
福山駅前広場整備の今後の進め方について

第17回 福山駅前デザイン会議
日時：2023年（令和5年）10月11日（水曜日）
議題：ふくまちエリアにおける福山駅前広場の役割と広場空間の管理運営について

2024

第18回 福山駅前デザイン会議
日時：2024年（令和6年）2月8日（木曜日）
議題：福山駅前広場整備に係る検討内容（中間とりまとめ）について

福山駅周辺デザイン計画更新

福山駅前デザイン会議構成員名簿

座長	清水義次（株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）
福山駅前再生 アドバイザー	岡崎正信（オガールプラザ株式会社代表取締役）
	西村 浩（株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役）
	松本大地（株式会社商い創造研究所代表取締役）
大学	渡邊一成（公立大学法人福山市立大学都市経営学部教授）
市	建設局長
	市長公室長
	市長公室世界バラ会議推進担当部長
	企画財政局企画政策部長
	総務局総務部長
	経済環境局経済部長
	経済環境局文化観光振興部長
	保健福祉局福祉部長
	市民局まちづくり推進部長
	建設局建設管理部長
	建設局土木部長
	建設局都市部長
	建設局福山駅周辺再生推進部長

関係機関	株式会社CAP
	株式会社中国銀行
	株式会社築切家守舎（都市再生推進法人）
	独立行政法人都市再生機構
	西日本旅客鉄道株式会社
	株式会社広島銀行
	広島県
	広島県福山東警察署
福山商工会議所	

2024年（令和6年）3月時点

No	頁	用語	説明
1	1	ウォークブルエリア	多様な人々が集い、交流し、滞在する「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成をめざす区域（国土交通省）
2	3	コンテンツ	まちを構成する人や産業のこと
3	3	エリア価値	敷地単位の価値ではなく、一定のエリアを対象として捉えた価値のこと
4	6	SDGs	Sustainable Development Goalsの略。持続可能な開発目標
5	7	コンパクト・プラス・ネットワーク	生活サービス機能と居住が集約したコンパクトなまちと、それらを利用性の高い公共交通で相互に結んだ、多極ネットワーク型のコンパクトシティ及びその実現を志向する政策のこと（国土交通省）
6	8	都市のスポンジ化	都市の内部において、空き地、空き家等の低未利用の空間が、小さな敷地単位で時間的・空間的にランダムに、相当程度の分量で発生する現象のこと（「都市計画基本問題小委員会中間とりまとめ概要」2017年 国土交通省）
7	9 19 23	Q O L	Quality of Lifeの略。生活の質
8	9	高次都市機能	日常生活を営む圏域を超えて広域的に影響を及ぼし、地域の自立的発展に資する都市機能のこと（「備後圏域の整備、開発及び保全の方針」2011年広島県）
9	9	地域インフォメーションデザイン	行政と民間が連携し、それぞれの視点から新鮮な情報を常に発信できる仕組み
10	9	I C T, I o T, A I	Information and Communication Technology（情報通信技術）、Internet of Things（モノのインターネット）、Artificial Intelligence（人工知能）の略
11	9	エリアプロデュース	特定の地域において、連鎖的に発生したプロジェクトを一つのビジョンに沿って統合的に動かしていくこと
12	9	エリアマネジメント	特定の地域において、住民・事業者・地権者などが連携してオープンカフェやイベント、プロモーション活動などを行うことにより、その地域全体の価値を効率的に維持・向上させる民間の主体的な取組のこと

No	頁	用語	説明
13	13	Park-PFI	飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度」のこと（「都市公園の質の向上に向けたPark-PFI活用ガイドライン」2017年 国土交通省）
14	13	グリーンスローモビリティ	電動で時速20km未満で公道を走る事が可能な4人乗り以上のパブリックモビリティのこと（国土交通省）
15	15	まち宿	まちを一つの宿と見立て宿泊施設と地域の日常をネットワークさせ、まちぐるみで宿泊客をもてなすことで地域価値を向上していく事業のこと（一般社団法人日本まちやど協会）
16	29	歩行者利便増進道路制度（ほこみち）	「道路空間を街の活性化に活用したい」「歩道にカフェやベンチを置いてゆっくり滞在できる空間にしたい」など、道路への新たなニーズの高まりを受けて、2020年に成立した改正道路法により創設された制度。歩行者利便増進道路に指定することで、「歩行者の利便増進を図る空間」を歩道内に定めることができ、その空間内で道路占用が柔軟に認められる
17	35	エリアMICE	大規模一体型施設によるオールインワン型MICEに代わり、都心の会議施設、ホテル、商業施設等が連携して地域ぐるみでMICE機能を提供しようとするもの。様々な都市機能を活用した魅力的な都市サービスを提供できる点に特色があり、競争力のある新たなMICE形態として期待される
18	35	ユニークベニュー	「博物館・美術館」「歴史的建造物」「神社仏閣」「城郭」「屋外空間（庭園・公園、商店街、公道等）」などで、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと
19	50	シェアドスペース	限られた道路幅員の中で、歩道と車道の分離構造を設けずに、主に視覚的な操作によって、自動車速度を抑制することで、歩行者と自動車共存できる環境を創出するデザインのこと

福山駅周辺デザイン計画

発行日：2020年（令和2年）3月
更 新：2021年（令和3年）3月
2022年（令和4年）3月
2023年（令和5年）3月
2024年（令和6年）3月

発 行：福山市 建設局 福山駅周辺再生推進部 福山駅周辺再生推進課
〒720 - 8501 福山市東桜町3番5号
電話：084 - 928 - 1094 FAX：084 - 928 - 1735
URL：http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/

<図表について>

・次の図表は、国土地理院の基盤地図情報をもとに編集・加工して作成しています。
図表8・9・11・12・16・18・21・22・23・28・30・34・36・37・38・39・40